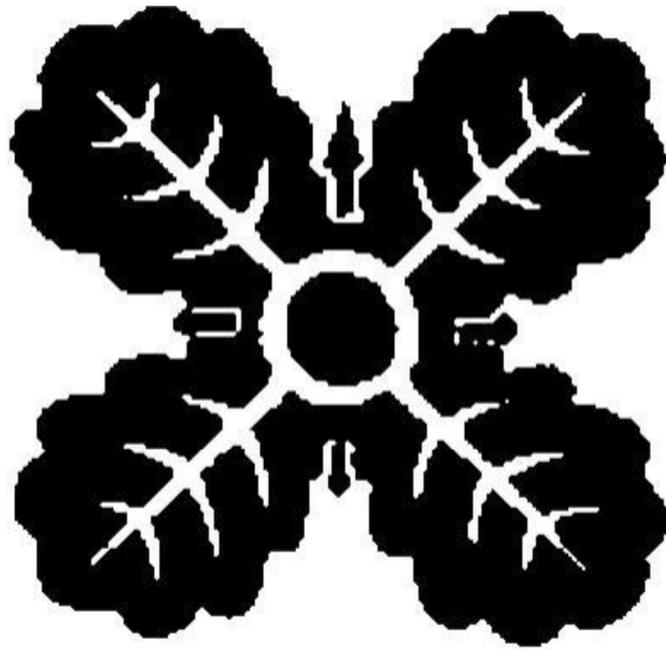


令和4年度

年間授業計画



東京都立戸山高等学校
全日制課程

目 次

(1年)

現代の国語
言語文化
地理総合
歴史総合
公共
数学 I
生物基礎
体育
保健
音楽 I
美術 I
書道 I
英語コミュニケーション I
情報 I

(2年)

世界史 B
日本史 B
物理基礎
化学基礎
体育
保健
情報の科学

(3年)

政治・経済
体育

年間授業計画

科目(講座名)	現代の国語	2単位	必修	学年	1年
教科書 副教材	「現代の国語」(筑摩書房) 「新版七訂新訂総合国語便覧」(第一学習社) 「上級入試漢字」(桐原書点) 「ちくま評論入門 二訂版」(筑摩書房) 「現代文長文記述問題集2読解力養成編三訂版」(いっずな書店)	教科担当			

1 教科の目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。

- 生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
- 生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。
- 言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

2 科目の目標

- 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。
- 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- 言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

3 授業内容と学習方法

授業(学習)内容

- 論理的な文章や実用的な文章を読み、その内容や形式について、要約等しながら論述したり、話し合ったりして考察を深める。
- 異なる形式で書かれた複数の文章や図表等を伴う文章を読み、解釈したことをまとめたり、発表したりして情報活用力、発信力を伸ばす。
- 漢字や語彙の学習、話し合いや意見の発表等の学習活動を通して、語彙力や表現力、論述力、行動力、創造力を伸ばす。

学習方法

- 論理的な文章の構成を意識して筆者の主張を的確に読み取り、論理的な思考力を高める。
- 文章や話に含まれている情報について主張と論拠、推論、妥当性等、情報と情報の関係について理解を深める。
- 課題を解決したり考えを深めたりするために、話を聴き合う場をつくり、表現に留意した上で話し合いを行う。
- 要約や自分の考えをまとめることを通して、説得力のある文章を書く。
- ものの見方、感じ方、考え方を広げたり深めたりするために、語彙を増やし、読書に親しむことを継続する。

4 評価方法並びに学習到達目標と評価の観点

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
学習到達 目標並び に評価の 観点	実社会に必要な、言葉の特徴や使い方、情報の扱い方、言語文化に関することや読書等、国語の知識や技能を身に付けるようにしている。	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を広げたり深めたりしながら、言葉のもつ価値への認識を深めようとしている。また、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、言語文化に関心をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。
評価方法	言葉や漢字、情報、知識等の獲得について、定期考査、課題に対する取り組み状況、提出物、小テスト、出席状況・学習態度などをもとに評価する。	知識や技能を活用して上記の目標達成を評価するために、定期テストや小テストに加えて論述や課題の作成、話し合いや発表等の活動、出席状況・学習態度などをもとに判断する。	知識・技能の獲得や思考力、判断力、表現力等を身に付けるための取り組みや試行錯誤を行おうとしていることを評価するために、定期考査、課題、提出物、小テスト、レポート、アンケート、出席状況・学習態度等をもとに総合的に判断する。

5 授業計画

期	月	学習内容	学習活動	評価規準	時数
1 学期	4	ガイダンス (受け入れる力) 〈問うこと、語ること〉 「境目」 (川上弘美)	・本文を読み、「～の境目」ということばで表現できる過去の経験や出来事について言葉で書き出す。 ・書き出した内容をグループで話し合い、発表する。	知 「境目」という言葉を通して、言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解している。具体例と主張など情報を効果的にまとめる方法を理解している。 思 目的や場に応じて、実社会や体験の中から適切な話題を選択し、様々な観点から情報を収集、整理して、伝え合う内容を考え、表現している。 主 教材の内容、他者との関係、「境目」に関心をもとうとしている。発表の態度は積極的で、他の人の発表も注意深く聞き、もの見方、考え方を深めようとしている。	4
	5	(情報活用力、読解する力) 〈評論文への招待〉 「ことばとは何か」 (内田樹) 「デジタル社会」 (黒崎政男)	・語意味を辞書等で調べ、具体例やキーワードをまとめ、内容を読み取る。 ・用語に関して辞書と本文の意味のずれを考える。 ・テーマを選び、具体例やキーワードを用いて表現する。数人のグループで話し合う。	知 「ことばやデジタル化について書かれた教材を通して、内容を理解するとともに、言葉に関する知識を増やし、活用する方法を理解している。 思 評論文という文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述をもとに的確に捉え、要旨や要点を把握している。 主 教材の「ことば」について関心をもち、調べようとしている。「デジタル社会」の特質を理解しようとしている。積極的に意見を言い、他の人の発表も注意深く聞き、もの見方、感じ方、考え方を広げ、深めようとしている。	8
	6	(探究力) 〈ことばで伝える思いと考え〉 「ことばがつくる女と男」(中村桃子)	・教材の各部分と全体構成上の役割を理解する。 ・どのような言語行為がアイデンティティをつくっているのか、関連について考察する。	知 ことばつかいとアイデンティティについて書かれた教材を読んで、内容を理解するとともに、語句を増やして語感を磨き、言葉を豊かにすることができている。 思 評論文という文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述をもとに的確に捉え、要約することができている。 主 教材内の「アイデンティティ」や「指標性」といった語句に関心をもち、「言語」の特質を理解しようとしている。積極的に読解し、考察しようとしている。	4
	7	(解決する力) 〈話し合いから議論へ〉 「〈私〉時代のデモクラシー」 (宇野重規) 期末考査	・「近代社会」と「伝統的な社会」を比較し、「近代社会」「デモクラシー」の特徴をまとめる。 ・筆者の意見をふまえて、関心を持った社会問題やニュースについて議論する。	知 「〈私〉(たち)」「デモクラシー」について書かれた教材を読んで、内容を理解するとともに、語句を増やして語感を磨き、言葉を豊かにすることができている。 思 評論文という文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述をもとに的確に捉え、要旨や要点を把握している。 主 教材内の「〈私〉(たち)」「〈私たち〉」「デモクラシー」といった内容に関心をもち、調べようとしている。筆者の意見をふまえて、社会問題等を調べ、意見をもとうとしている。	4
		(情報活用力) 〈情報と推論〉 「わかっていることと知らないこと」 (堀正岳)	・教材に用いられたグラフの読み方を学び、他のグラフの種類を調べる。読み取った内容を話し合う。 ・新聞記事を読み解き、話し合う。	知 教材に用いられたグラフを読み、推論の仕方を理解し使うことができている。情報の妥当性や信頼性の吟味について理解している。 思 グラフ付きの文章の種類を踏まえて、内容の読み取りや情報の妥当性について判断することができている。 主 グラフ付きの文章を読み解く学習の内容に関心を持っている。実用的な文章の扱いに積極的に取り組もうとしている。自らの意見を言い、他の人の発表も注意深く聞き、もの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。	4
2 学期	9	(情報発信力) 〈「根拠」から「主張」へ〉 「魔術化する科学技術」 (若林幹夫) 「マルジャーナの智慧」 (岩井克人)	・段落構成に注目して作者の論理や主張をつかむ。 ・各意味段落の内容を統合して要約文を作成する。 ・印象に残っている昔話や寓話、エピソードを持ち寄り、語り継がれてきた理由を話し合い、発表する。	知 教材に用いられた「科学技術」や「マルジャーナの智慧」について理解し、言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解している。本文中の根拠と主張について把握している。 思 「科学技術」や「情報」、「差異」といった言葉を通して、また、評論文という文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて把握し、根拠と主張の活用など情報を伝える工夫を理解している。 主 教材の内容に関心をもっている。具体例や理由を示し、説明しようとしている。発表の態度は積極的で、他の人の発表も注意深く聞き、もの見方、考え方を深めようとしている。	8
	10	(受け入れる力) 〈伝えること、受け止めること〉 「記憶する体」 (伊藤亜紗)	・「経験の質的な差異」等本文の内容を読み取る。 ・本文をふまえて、目を閉じて、手で机に触れ、隣の人に机の状態を説明したり、写真を文字だけで表現して発表したりする。	知 教材の中の「経験の質的な差異」や「出来事の追体験」といった用語を理解し、言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解している。 思 評論文という文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述をもとに的確に捉え、要旨や要点を把握している。相手の反応を考えながら、論理の展開を考えるなど、話の構成や展開を工夫することを理解している。 主 教材の内容に関心をもっている。具体例や理由を示し、説明しようとしている。発表の態度は積極的で、他の人の発表も注意深く聞き、もの見方、考え方を深めようとしている。	4
	11	(情報発信力) 〈表現のみがき方〉 「贅沢の条件」 (山田登世子)	・本文を読解し、「機械的時間」と「手仕事の時間」にあてはまる具体例について話し合う。 ・挙げた具体例を、二項対立を使ってまとめる。	知 教材の中の「機械的時間」と「手仕事の時間」について理解し、言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解し、言葉や漢字を増やしている。 思 読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度などを考えて、文章の構成や展開を工夫することができている。目的や意図に応じて書かれているかなどを確かめて、文章全体を整えている。 主 教材の内容に関心をもち、論理の展開を考えてまとめようとしている。態度は積極的で、他の人の発表も注意深く聞き、もの見方、考え方を深めようとしている。	3

	12	<p>(探究力) 〈主張の論理的な伝え方〉 「来るべき民主主義」 (國分功一郎) 期末考査 「主体という物語」(小坂井敏晶)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本文を読解し、考察する。 ・感銘を受けたことのある他者のことばをメモに書き出し、共有する。 ・一つのことばを選び、身近な問題を考察する。 ・主張したい仮説をたて、関連する情報を集め、仮説を検証する。 	<p>知 筋道を立てて論述する仕方を学ぶ中で、言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解している。論点を共有し、考えを広げたり深めたりして話し合いを工夫している。</p> <p>思 「民主主義」、「主体」といった言葉を通して、また、評論文という文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて理解している。叙述をもとに的確に、要旨や要点を把握している。</p> <p>主 教材の内容に関心をもっている。具体例や仮説を示し、他者に伝わるように説明しようとしている。学習への取り組みは積極的で、他の人の発表も注意深く聞き、ものの見方、考え方を深めようとしている。</p>	9
3 学期	1	<p>(創造力) 〈複眼的な視点〉 「開かれた文化」 (岡真理)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教材本文の『『文化相対主義』と「文化相対主義」の違いを具体例に即してまとめ、国や地域の風習や文化について調べる。 	<p>思 2つの「文化相対主義」や「リスク社会」について理解し、言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解している。対比や具体例と主張の関連など情報を読み取る際の工夫を理解している。</p>	14
	2	<p>「リスクと近代社会」 (大澤真幸) 学年末考査</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会の具体的なリスクを挙げ、「リスク社会」に生きる私たちに求められていることは何か、本文をふまえた上で考察を深める。 	<p>主 「文化相対主義」や「リスク社会」といった言葉を通して、また、評論文という文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述をもとに的確に捉え、要旨や要点を把握している。異なる意見を対比して物事を考察しようとしている。</p> <p>主 教材の内容に関心を持ち、それを契機に世界や社会の問題を考えようとしている。対比や具体例や根拠を活用し、まとめようとしている。発表の態度は積極的で、他の人の発表も注意深く聞き、ものの見方、考え方を広げ、深めようとしている。</p>	
	3	<p>社会を作ることば —情報の整理と活用—</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞記事を読み解き、読み取った内容を話し合う。 	<p>知 教材に用いられた新聞記事を読み、推論の仕方を理解し使うことができる。情報の妥当性や信頼性の吟味について理解している。</p> <p>思 新聞記事といった文章の種類を踏まえて、内容の読み取りや情報の妥当性について判断することができる。</p> <p>主 グラフや新聞記事を読み解く学習の内容に関心を持っている。実用的な文章の扱いに積極的に取り組もうとしている。自らの意見を言い、他の人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。</p>	

6 学習者へのメッセージなど

言葉によって理解し、表現する力を伸ばすために、教材をより深く理解し、読解力、思考力、判断力、表現力を高める努力をしましょう。語彙を増やすために各教材の語句の意味調べ等の予習をし、また副教材「ちくま評論入門」での学習、漢字小テスト、読書、休業中の課題等にも着実に取り組みましょう。

本を読み、他者と話し合い、自ら考えていくことで、情報を選ぶ力と発信する力がつき、社会で生きる力が育まれます。本校で友人とともに学ぶことがみなさんの成長につながることを願っています。

(なお上記教材は、省略したり、学ぶ順番を入れ替えたりする場合があります。)

年間授業計画

科目(講座名)	言語文化	単位	必修・選択	学年	1年
教科書 副教材	「精選言語文化」(三省堂) 「新版七訂新訂総合国語便覧」(第一学習社) 「体系古典文法九訂版」(数研出版) 「必携新明説漢文」(尚文出版) 「Key&Point 古文単語 330」(いいずな書店) 「古典文法習得のための用言活用ノート新版」(数研出版) 「古典文法習得のための助動詞マスターノート新版」(数研出版) 「新成古典 大学入学共通テスト対策 新装版」(尚文出版)	教科担当			

1 教科の目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。

- (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
- (2) 生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。
- (3) 言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

2 科目の目標

上代(万葉集の歌が詠まれた時代)から近現代につながる文学作品に触れ、日本の伝統や文化が育んできた言語文化を理解し、これを継承していく一員として、自身の言語による諸活動に活かす能力を身につける。また人物の心情や情景、表現の仕方等を味わい評価することを通して、感性・情緒を深めると同時に、自分と自分を取り巻く社会にとっての古典の意義や価値について探究する「古典探究」を学ぶための基礎力をつける。

3 授業内容と学習方法

日本の上代以降の古文だけでなく、中国に由来する漢文、近現代における文学作品まで、文化の成立や成熟に深い関わりのある言語の側面から日本文化の理解にアプローチする。作者が言語で表した一つの形を、時代的背景を加味しながら解釈するとともに現代に生きる自分の見方、捉え方を通して、言語表現の奥深さを感じてほしい。また現代に残る表現が私たちの感性や生活に根付いていることも知り、表現の多様性にも注目してほしい。とはいえ、解釈の基礎となる文法的事項への理解がまずは肝要となる。予習や小テスト等を通じて古典を現代語で解釈をする力を養い、読解力を向上させ、授業で提起される問いに向き合えるよう努めてほしい。

4 評価方法並びに学習到達目標と評価の観点

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
学習到達 目標並び に評価の 観点	<ul style="list-style-type: none"> ・古典を読むために必要な文法、句法、語句、歴史的・文化的背景などを理解している。 ・古典における語句や文体の変化や、内容について、通時的、共時的にまた地理的な側面から捉え、現代語や日本文化とのつながりについて理解を深めている。 ・創作活動を通じて、言語が文化そのものであることを理解している。 ・常用漢字や既習の語句等を使用して、高度な表現を追求している。 ・読書の意義と効用について理解を深めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉え、作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を理解している。また日本の言語文化について自分の考えを持っている。 ・作品が成立した歴史的背景を踏まえて、解釈を深めている。 ・自分の知識や体験の中から適切な題材を決め、集めた材料のよさや味わいを吟味して、表現したいことを明確にしている。また、その体験や思いが効果的に伝わるよう、表現の仕方を工夫している。 ・創作活動において、自分の感じたことや発見したことを文学的な形式を用いて表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・予習や課題に対して積極的に取り組み、学習の成果を出すとともに、次の学習に活かそうとしている。 ・課題に対する成果をまとめ、他者への伝え方としてわかりやすさや方法について工夫を追求しようとしている。 ・課題に対して他者と協働して答えを導き、作品や文章、言語文化について理解を深めようとしている。
評価方法	定期テスト、小テスト、提出物、発表活動	定期テスト、小テスト、提出物、発表活動	提出物、グループワーク、発表活動

5 授業計画

期	月	学習内容	学習活動		評価規準	時数
1 学期	4	【古文編】 一 古文入門 【漢文編】 一 漢文入門 二 故事成語	古文の基礎知識の習得 宇治拾遺物語 「児のそら寝」 「絵仏師良秀」 漢文の基礎知識の習得 故事成語 「朝三暮四」	知	古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりを理解している。 古典に特徴的な語句について理解している。 古典の世界に親しむために、作品の歴史的・文化的背景などを理解している。	16
	5			思	内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。 作品に表れているもの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 作品や文章の成立した背景などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。	
				主	予習や課題に対して積極的に取り組み、学習の成果を出すとともに、次の学習に活かしている。 課題に対する成果をまとめ、他者への伝え方としてわかりやすさや方法について工夫を追求している。 課題に対して他者と協働して答えを導き、作品や文章、言語文化について理解を深めている。	
	6	【古文編】 三 物語 【漢文編】 二 故事成語	竹取物語 「かぐや姫の誕生」 「黄金ある竹」 故事成語 「借虎威」 「推敲」	知	古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりを理解している。 古典に特徴的な語句について理解している。 古典の世界に親しむために、作品の歴史的・文化的背景などを理解している。 時間の経過や地域の文化的特徴などによる文字や言葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解している。 常用漢字の読みに慣れ、文や文章の中で使っている。 日本の言語文化への理解につながる読書の意義と効用について理解を深めている。	20
	7	【近代以降の文章編】 一 小説一	「羅生門」	思	内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。 作品に表れているもの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 作品や文章の成立した背景などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。 自分の知識や体験の中から適切な題材を決め、集めた材料のよさや味わいを吟味して、表現したいことを明確にしている。	
					主	予習や課題に対して積極的に取り組み、学習の成果を出すとともに、次の学習に活かしている。 課題に対する成果をまとめ、他者への伝え方としてわかりやすさや方法について工夫を追求している。 課題に対して他者と協働して答えを導き、作品や文章、言語文化について理解を深めている。
2 学期	9	【近代以降の文章編】 五 小説三 【古文編】 二 随筆	「待ち伏せ」 徒然草 「つれづれなるままに」 「丹波に出雲といふ所あり」 「神無月のころ」	知	古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりを理解している。 古典に特徴的な語句について理解している。 古典の世界に親しむために、作品の歴史的・文化的背景などを理解している。 常用漢字の読みに慣れ、文や文章の中で使っている。	21
	10	三 物語 【漢文編】 五 文章 三 史話	伊勢物語 「芥川」 文章 「雑説」 十八史略 「先従隗始」	思	内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。 作品に表れているもの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 作品や文章の成立した背景などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。 作品の内容や解釈を踏まえ、自分のもの見方、感じ方、考え方を深め、日本の言語文化について自分の考えを持っている。 自分の知識や体験の中から適切な題材を決め、集めた材料のよさや味わいを吟味して、表現したいことを明確にしている。 自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、文章の種類、構成、展開や文体、描写、語句などの表現の仕方を工夫している。	
				主	予習や課題に対して積極的に取り組み、学習の成果を出すとともに、次の学習に活かしている。 課題に対する成果をまとめ、他者への伝え方としてわかりやすさや方法について工夫を追求している。 課題に対して他者と協働して答えを導き、作品や文章、言語文化について理解を深めている。	
	11	【古文編】 三 物語 六 日記・紀行 【漢文編】 三 史話 四 漢詩	伊勢物語 「東下り」 土佐日記 「門出」 「帰京」 史記 「鶏鳴狗盗」 漢詩	知	古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりを理解している。 古典に特徴的な語句について理解している。 古典の世界に親しむために、作品の歴史的・文化的背景などを理解している。 古典に特徴的な表現の技法とその効果について理解している。 日本の言語文化の特質や外国の文化との関係について理解している。 創作活動を通して、言葉には文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解する。 常用漢字の読みに慣れ、文や文章の中で使っている。	21
				思	内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。 作品に表れているもの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 作品や文章の成立した背景などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。 作品の内容や解釈を踏まえ、自分のもの見方、感じ方、考え方を深め、日本の言語文化について自分の考えを持っている。	

	12	【近代以降の文章編】 日本語の内と外	「月の誤訳」		創作活動を通じて、感じたことや発見したことを文学的な形式を用いて表現している。	
				主	予習や課題に対して積極的に取り組み、学習の成果を出すとともに、次の学習に活かしている。 課題に対する成果をまとめ、他者への伝え方としてわかりやすさや方法について工夫を追求している。 課題に対して他者と協働して答えを導き、作品や文章、言語文化について理解を深めている。	
3 学 期	1	【古文編】 五 軍記 四 和歌	平家物語 「木曾の最期」 万葉集 古今和歌集 新古今和歌集 十八史略 「臥薪嘗胆」 論語 短歌・俳句 「日本語の部屋」	知	古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりを理解している。 古典に特徴的な語句について理解している。 古典の世界に親しむために、作品の歴史的・文化的背景などを理解している。 古典に特徴的な表現の技法とその効果について理解している。 時間の経過や地域の文化的特徴などによる文字や言葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解している。 和漢混交文など歴史的な文体の変化について理解している。 日本の言語文化の特質や外国の文化との関係について理解している。 創作活動を通して、言葉には文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解する。 常用漢字の読みに慣れ、文や文章の中で使っている。	27
	2	【漢文編】 三 史話 六 思想		思	内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。 作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 作品や文章の成立した背景などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。 作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、日本の言語文化について自分の考えを持っている。 創作活動を通じて、感じたことや発見したことを文学的な形式を用いて表現している。	
	3	【近代以降の文章編】 四 短歌と俳句 日本語の内と外		主	予習や課題に対して積極的に取り組み、学習の成果を出すとともに、次の学習に活かしている。 課題に対する成果をまとめ、他者への伝え方としてわかりやすさや方法について工夫を追求している。 課題に対して他者と協働して答えを導き、作品や文章、言語文化について理解を深めている。	

6 学習者へのメッセージなど

日本語は習得が難しい言語だと言われます。確かに助詞の使い方一つで文章のニュアンスが変わりますし、同じ意味を指す言葉が多くあったり、敬語には大人であっても悩まされたり、そもそも表記の仕方は3つもあつたりして、日本語を作った先人たちを恨めしく思うこともあります。しかし日本語を作ったのは「先人たち」ではありません。「言語は変化するもの」とよく耳にしますが、グローバル化など社会の動向やSNSのような情報通信手段の普及、発展によって、新しい言葉がどんどん生まれています。少し前の「やばい」と現在の「やばい」の意味は違っています。状況の捉え方、感じ方をぴったりと反映する言葉を選び、表現するという日々営みの中で私たちもまた言葉を作り出しているのです。変化の中に身が置かれていること、だからこそ感じられる先人たちが残した心や文化を、言語を通して楽しんでほしいと思います。

年間授業計画

科目(講座名)	地理総合	単位	必修	学年	1年
教科書 副教材	『地理総合』東京書籍 『新詳高等地図』帝国書院 『五訂版 最新地理図表 GEO』第一学習社 『地理統計 Plus - Web GIS 付き - 2022 年版』帝国書院	教科担当			

1 教科の目標

社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

2 科目の目標

社会的な事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

3 授業内容と学習方法

【学習内容】地図や地理情報システム（GIS）などを用いることで、汎用的で実践的な地理的技能を習得する。そのうえで、自然環境条件と人間の営みとの関わりに着目して現代の地理的な諸課題を考察する。グローバルな視点からは国際理解や国際協力のあり方を、地域的な視点からは防災などの諸課題への対応を扱う。作業的や具体的な体験をともなう学習を重視し、さまざまな諸課題を日常生活と関連づけて取り扱いながら、地理的な技能を身に付ける。

【学習方法】授業では、地図や統計、写真などの読み取り方に重点を置いて学習を進める。地名や語句の意味を正確に理解する力も必要だが、資料から情報を正確に読み取る力や、知識と読み取った情報を組み合わせて考察する力を身に付けられるように授業を行う。自分で学習する際には、復習を重視し、語句の意味や事象の内容を説明できるようにするとともに、事象の変化や違いについても論理的に説明できるように地図や資料を用いながら学習すると良い。暗記だけに頼らないこと。

4 評価方法並びに学習到達目標と評価の観点

	知識及び技能	思考力, 判断力, 表現力等	学びに向かう力, 人間性等
学習到達目標並びに評価の観点	地理に関わる様々な事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取り組みなどを理解する。また、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や資料からさまざまな情報を適切に調べ、まとめる技能を身に付ける。	地理に関わる事象の意味や特色、相互関連について、位置や分布、人間と自然環境との相互関係、地域などに着目して、多面的・多角的に考察する。また、地理的な課題の解決に向けて構想する力や、考察したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	地理に関わる事象について、そこで見られる課題を主体的に追究・解決しようとする態度を養う。また、多面的・多角的な考察や深い理解を通して、社会に生きる公民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする自覚などを深める。
評価方法	定期テスト 小テスト	定期テスト レポート	定期テスト レポート アンケート

5 授業計画

期	月	学習内容	学習活動		評価規準	時数
1 学期	4	地図や地理情報システムでとらえる現代世界	私たちが暮らす世界	知	<ul style="list-style-type: none"> 世界地図や地球儀での表現方法ならびに日本の位置や領域についての基本的な事柄を理解し、その知識を身に付けている。 地図や統計・画像などの諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表にまとめたりしている。 	3
	思			<ul style="list-style-type: none"> 地球上の位置に関する事柄について、緯度・経度や世界地図・地球儀や領域の特徴をふまえて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 		
	主			<ul style="list-style-type: none"> 地球上の位置に関する事柄に対する関心と課題意識を高め、それらを意欲的に追究し、捉えようとしている。 		
	5	地図や地理情報システムの役割		知	<ul style="list-style-type: none"> 地図についての基本的な事柄を理解し、その知識を身に付けている。 地図や統計・画像などの諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表にまとめたりしている。 	4
	思			<ul style="list-style-type: none"> さまざまな地図について、縮尺・媒体・用途などに着目し、適切に整理している。 さまざまな統計数値を、適切な主題図で表現している。 GISを操作し計測結果や主題図を表示している。 		
	主			<ul style="list-style-type: none"> 紙の地図やGISに対する関心を高め、閲覧や作業を通して、それらの特徴を捉えようとしている。 		
6	資料から読み取る現代世界		知	<ul style="list-style-type: none"> 交通・通信技術の発展と国境を越えたさまざまな結び付きについて、基本的な事柄と追究の方法を理解し、その知識を身に付けている。 交通・通信手段や貿易構造の変化、世界の国家群の特徴などについて、地図や図表の読み取りを通じて理解を深めている。 交通・通信の利用・整備の状況や国境をこえた人・モノ・情報の移動、世界の国家群などについて、地図や統計・画像などの諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。 	5	
思			<ul style="list-style-type: none"> 交通・情報通信が国境をこえて結び付き、その結び付きがますます強固になっていることについて、地域性や日常生活との関連をふまえて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 貿易や観光などにみられる国境をこえたモノや人の動きについて、地域性や日常生活との関連をふまえて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 グローバル化の加速によって形成された地域経済圏や国家群について、地域性や日常生活との関連をふまえて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 			
主			<ul style="list-style-type: none"> 交通・通信の発達による社会の変化と、それとともに起こるようになった諸問題に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、捉えようとしている。 グローバル化の進む現代世界において、政治的・経済的な国家間の結び付きが強まっていることに対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、捉えようとしている。 			

1 学期	6	国際理解と 国際協力	人々の生活文化と 多様な地理的環境	知	<ul style="list-style-type: none"> ・世界にみられる多様な文化について、基本的な事柄と追究の方法を理解し、その知識を身に付けている。 ・さまざまな産業とそれらの分布について基本的な事柄と追究の方法を理解し、その知識を身に付けている。 ・地図や統計・画像などの諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。 	14
	7			思	<ul style="list-style-type: none"> ・文化の違いがなぜ生じるかということについて、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 ・世界各地で多様な地形や気候・植生がみられることについて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 ・さまざまな産業の特徴や産業立地、それらの変化について多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 ・地域の文化や人々の暮らし、産業の違いを、それぞれの地域の自然環境との関連に着目しながら多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 	
2 学期	9	さまざまな地球的課題と国際協力	さまざまな地球的課題と国際協力	主	<ul style="list-style-type: none"> ・文化の多様性と異なる文化の理解や共存に関して関心と課題意識を高め、それらを意欲的に追究し、捉えようとしている。 ・さまざまな自然環境に対応した人々の生活や産業の工夫について関心と課題意識を高め、それらを意欲的に追究し、捉えようとしている。 ・技術の発展やグローバル化などによってどのように産業が発展・変容してきたかについて、関心と課題意識を高め、それらを意欲的に追究し、捉えようとしている。 	10
	10			知	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな要因がからむ地球的な課題についての基本的な事柄を理解し、その知識を身に付けている。 ・地図や統計・画像などの諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表にまとめたりしている。 	
	11			思	<ul style="list-style-type: none"> ・地球的な課題について、地域性や歴史的背景、日常生活との関連や国際社会の変化をふまえて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 	
12	主	<ul style="list-style-type: none"> ・各国の社会状況にあった具体的な解決が求められる地球的な課題に対する関心を高め、それらを意欲的に追究し、捉えようとしている。 				
3 学期	1	持続可能な 地域づくりと 私たち	自然環境と防災	知	<ul style="list-style-type: none"> ・変化に富んだ日本列島の自然環境、大きな被害をもたらす自然災害について、基本的な事柄と追究の方法を理解し、その知識を身に付けている。 ・多発している日本列島の自然災害とその克服について、基本的な事柄と追究の方法を理解し、その知識を身に付けている。 ・地図や統計・画像などの諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。 	9
	2			思	<ul style="list-style-type: none"> ・日本列島の地形や気候と自然災害について、地域性や日常生活との関連をふまえて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 ・日本列島のさまざまな自然災害と防災対策について、地域性や日常生活との関連をふまえて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 	
				主	<ul style="list-style-type: none"> ・日本列島の豊かな自然環境と近年増大している自然災害に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、捉えようとしている。 ・深刻な日本列島の自然災害と防災に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、捉えようとしている。 	

3		生活圏の調査と地域の展望	知 ・地域調査の手順や注意すべきことを理解している。 ・地図や統計・画像などの諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表にまとめたりしている。 思 ・身近な地域の特徴を、設定したテーマに沿って捉え、明らかになったことを適切に表現している。 主 ・身近な地域の特徴を明らかにするために、意欲的に地域調査に取り組もうとしている。	4
---	--	--------------	--	---

6 学習者へのメッセージなど

地理は、空間の視点から現代の社会を理解したり、社会の課題について考察したりする科目です。特に「地理総合」では、Google earth に代表されるような地理情報をコンピュータで処理して表現するGIS（地理情報システム）や、近年頻発している自然災害と防災など、私たちの日常生活に深くかわる内容を扱います。物事を空間的に把握することは、居住地選択や企業の立地展開など、将来皆さんが直面する様々な「場所を選ぶ」ことに役立つとともに、旅行などで景色を見る際にもより楽しめる教養を身につけることにつながります。地理を理解するためには、新聞やニュース等をよく見て、地理で学習した内容が現代社会にどのように関わっているのかを考えることが効果的です。また、歴史や倫理・政治経済などの他科目や、地学や保健、家庭科などの他教科の知識も地理の理解を深めてくれます。ぜひ全ての教科・科目をしっかりと学習し、それらを活用して地理の深い理解につなげてください。

年間授業計画

科目(講座名)	歴史総合	2単位	必修	学年	1年
教科書	『現代の歴史総合 みる・読みとく・考える』山川出版社	教科担当			
副教材	『明解 歴史総合図説 シンフォニア』帝国書院				

1 教科の目標

社会的な見方・考え方を働かせ、自ら課題を設定し、追究し解決する活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目標とする。その際、現代世界の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開への理解、調査や諸資料を調べまとめる技能、課題の構想力、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、日本国民としての自覚、他国や他国の文化を尊重する態度を深めていく。

2 科目の目標

人間の歩みについて、近代・現代に焦点をあて、世界とそこにおける日本の歩みと関連づけながら、今日の日本と世界の国々の政治・経済・社会・文化あるいはそれらの相互作用を考察し、学びを深めていくことを目標とする。社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究し、解決する活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会を歴史とともにとらえ、主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することをめざす。その際、近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とそこの中を広く相互的な視野から捉え、近現代の歴史を理解し諸史資料を調べまとめる技能、歴史を時期や推移に着目して事象同士を因果関係などで関連付ける力を養い、国際社会の動きの中で日本を理解し、地域社会や身の回りの事象と関連させて課題を追究し解決する活動を深めていく。

3 授業内容と学習方法

近現代の世界の歴史と日本の歴史を、相互的な視野から考察できるよう授業を構成する。考察するための知識や史資料を読み取る技能を身に付け、人々の生活や社会の在り方の変化を、「近代化」・「国際秩序の変化」・「グローバル化と私たち」の3つの主題を中心に学びをすすめる。史資料に基づいて歴史が叙述されていることから知識を得た上で、授業において「問い(課題)」を提示し、問いの答え(解決策)の追究を主体的に行う。答えは、自ら考え、自ら見つけることができるように、各自が問いに対し、主体的に関わっていく。そのために、史資料を活用し、生徒同士で議論し、文章や言語で表現し、考察の結果をまとめていく。発表は Teams を活用し、ICTを用いて行う。

4 評価方法並びに学習到達目標と評価の観点

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
学習到達目標並びに評価の観点	近現代の歴史の変化について、世界とそのなかの日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の歴史的背景を理解する。 諸資料から歴史に関する情報を適切に調べまとめる技能を身につけるようにする。	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色を、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりに着目して、多面的・多角的に考察し、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想する力や、考察、構想したことを効果的に説明し議論する力を養う。	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養い、我が国の歴史に対する理解をすすめる、他国や他国の文化を尊重する姿勢を深める。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査における知識問題 歴史資料の調べ学習と読み取り学習 ICTを活用する技能 	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査における資料読みとりなどの応用問題 歴史資料のまとめ学習 リアクションペーパーの提出 グループ協議やペアワークによる意見交換および発表 	<ul style="list-style-type: none"> 「問い(課題)」に対する多面的・多角的な考察。 グループによる探究活動。 グループで行うレポート制作。 「問い(課題)」に対する多面的・多角的な表現活動、発表。

5 授業計画

期	月	学習内容	学習活動		評価規準	時数
1 学期	4	・歴史の扉 ・近代化と私たち ・結びつく世界と日本の開国 日本の産業革命, 日本の開国, 帝国主義	・歴史の特質と資料について諸資料の読み取りの技能を学ぶ。 ・グループ毎に19世紀以降, 日本が関わった戦争について1つ選択し課題を考える。5連休中にグループレポートを作成する。 ・列強の帝国主義政策と植民地の形成について学ぶ。	知 思 主	・題材について、資料の種類・特性や作成の時期・場所・主体・目的・脈絡等をふまえた批判的な読みとりと吟味が重要であることを理解している。 ・諸資料や図版などから適切に情報を読みとり、その時代の様子や現代との異同を判断している。 ・資料を読みとる際の注意点を整理し、学習への見通しを立てようとしている。身近な題材に対して自ら「問い」を立て、歴史との関連を追究しようとしている。	5
	5	日本と戦争 変容する東アジアの国際秩序 ・日清戦争, 義和団戦争, 模索する清, 日露戦争	・上記の課題を相互に発表する。 ・Teamsを活用したICTによる発表を行う。 ・グループ学習を進めながら、選んだ戦争について、理解を深める。 ・中国・朝鮮・日本の変容の歴史的経緯について、欧米列強の動きと関連づけて考察する。	知 思 主	・日本が関わった近現代の戦争について概観し理解している。 ・帝国主義政策がアジア・アフリカに与えた影響に着目し、日本の歴史を位置づけている。 ・ICTを活用する技能を向上させている。 ・諸資料の読みとりを通して、日清戦争前後にみられる日本人のアジア観の変化について考察している。 ・日清・日露戦争を通して日本国民の対外意識が変化したことについて理解している。 ・資料の読みとりを生徒相互に発表し、対話し、資料にもとづいた考察をしている。 ・選んだ戦争について、課題を見つけ、グループで協議を行っている。	4
	6	日本と戦争 ・日露戦争続き ・辛亥革命 ・第一次世界大戦前夜の国際関係	・19世紀末から20世紀初頭の日本と国際秩序の変化について課題(問い)を設定する。 ・上記についてのグループ協議を行う。	知 思 主	・日露戦争における日本の勝利が、アジア諸民族の独立や近代化の動きに刺激を与えたこと、およびその後の変容について理解している。 ・韓国の植民地化や辛亥革命による清の滅亡と中華民国の建国などの東アジアの変容について、帝国主義政策を結びつけて理解している。 ・諸資料の読みとりを通して、韓国の植民地化や辛亥革命による清の滅亡と中華民国の建国などの東アジアの変容について、帝国主義政策を結びつけて思考している。 ・グループの課題が近代日本の変容とどのように関連し、日中戦争や太平洋戦争へとつき進んでいく経過と結びついているかという視点を持ち、その後の学習につなげようとしている。	9
	7	総力戦と社会運動 ・第一次世界大戦 ・夏休み課題の説明	・第一次世界大戦の勃発と展開, について理解する。 ・期末考査 ・5月連休前のグループレポートの課題を深めて、テーマを設定。	知 思 主	・教科書の本文、諸資料などから、第一次世界大戦が当初の予想よりも長期化した要因を理解している。 ・地図、史資料から日本の参戦と東アジアにおける勢力拡大の関係について思考しようとしている。 ・日本の参戦の背景と影響に着目して、主題を設定し、第一次世界大戦の性格と惨禍について考察し、表現している。 ・1学期の授業から、夏休みに探究したいテーマを見つけ、積極的にグループ協議を行っている。 ・探究のための参考文献や資料探しに取り組もうとしている。	3
	8	課題のまとめ	・課題レポートをまとめ Teams を活用して、発表に備える。	知 思 主	・レポート作成を通して、「問い(課題)」に対する理解を深め、発表できるよう知識を体系化している。 ・プレゼンテーションソフトを用いて、グループの発表が円滑に進むよう表現方法について工夫をしている。 ・近代日本が関わった戦争について、世界史的視野を持ちながら、グループで協議し、他者に伝わる発表について追究しようとしている。	1
2 学期	9	グループの発表 ・ロシア革命 ヴェルサイユ体制とワシントン体制 ・ワシントン体制 ・日本の協調外交	・夏休み課題のグループ発表を行う。 ・第一次世界大戦における1917年の意味を考えながらロシア革命を学ぶ。 ・地図、諸資料を活用しながらヴェルサイユ体制を学ぶ。	知 思 主	・発表内容について各自の担当箇所だけでなく、他のグループメンバーの担当した分野についても、深い理解をしている。 ・自らの発表と他グループの発表を通して、近代日本の歴史を多面的・多角的に考察し、そこに見られる課題を把握し効果的に説明し議論する力を養っている。 ・日本とアジア及び太平洋地域の関係や国際協調体制の特色などを多面的に考え、自分の探究テーマとの関連について主体的に向き合っている。 ・対立・協調について、よりよい社会の実現を視野に、自身との関わりをふまえて学習を振り返るとともに、次の学習へのつながりや課題を見出そうとしている。	8

3 学 期	10	世界経済の変容と日本 ・大戦景気と日本経済	・第一次世界大戦後の経済再建 ・1920年代の日本経済	知	・総力戦の直接的な影響を受けなかった日米両国が経済成長する要因を理解している。 ・アジアのナショナリズムを領域別にその特徴を理解している。	6
		アジアのナショナリズム	・朝鮮, 中国, インド, 西アジアのナショナリズム	思	・諸資料の読みとりを通して、日本の経済状況の変化について、時期を区分して考察し、表現している。	
				主	・高揚したアジアのナショナリズムについて、学習の見直しをもって取り組み、自身の問いと関連づけて追究しようとしている。	
	11	大衆の政治参加 世界恐慌の時代 ファシズムの伸長	・日本の大衆政治運動と男性普通選挙 ・日本の社会運動 ・大恐慌とその波及 ・昭和恐慌と恐慌からの脱出 ・イタリアとドイツのファシズム	知	1920年代に続いた恐慌への、政府の対応策の特徴について理解している。	8
				思	・グラフや統計などの諸資料を読みとり、経済状況の画期や政策の転換点について考察し、表現している。 ・恐慌対策である積極財政と緊縮財政の相違点、および長所と短所について考察し、表現している。	
				主	・ファシズムの伸長とヴェルサイユ体制の崩壊、共産主義勢力の対応について、学習の見直しをもって取り組むとともに、自身の問いと関連づけて追究しようとしている。	
	12	日中戦争への道 冬休み課題	・期末考査 ・中国国民党と中国共産党 ・冬休み課題についてグループで協議	知	戦争を抑止できず拡大に向かった要因について理解している。	4
				思	冬休みグループ学習に向けて、2学期の学習内容から判断した自らの課題について、探究をすすめていく方法を検討している。	
				主	冬休み学習をその後の学年末発表につなげて追究しようとしている。	
3 学 期	1	日中戦争への道 第二次世界大戦の展開	・満州事変と日本軍部の台頭 ・日中戦争 ・勃発と国際関係 ・日米の関係	知	・満州事変と日中戦争がもつ共通点と相違点について、国際関係の変化を含めて理解している。 ・日本政府と軍部の関係性、諸外国の対応、中国国内の政治体制の各変化について関連づけて理解している。 ・戦争を抑止できず拡大に向かった要因について理解している。	5
				思	・ヨーロッパで始まった第二次世界大戦にアメリカ合衆国と日本がどのように関与したのか、また何が太平洋戦争勃発の要因となったのかについて考察し、表現している。	
				主	・地図や諸資料の読みとりを通して、満州事変と日中戦争がどこで展開し、どのような被害があったかについて考察し、表現している。	
	2	第二次世界大戦の終結	・太平洋戦争 ・第二次世界大戦下の社会 ・原子爆弾の投下 ・日本の降伏 ・発表の準備	知	・地図を活用して、太平洋戦争の主戦場とその戦いの特徴を理解している。	7
				思	・大戦末期の日本の状況とそれを取り巻く米・英・ソの認識、原爆の投下について考察し、表現している。	
				主	・第二次世界大戦中の戦後構想や原爆の投下が、その後の世界に何をもたらしたのかという視点を持ち、その後の学習につなげようとしている。	
	3	軍拡競争 まとめと発表	・学年末考査 ・戦後世界と各兵器について ・冬休み課題を発展させ、グループ毎に「問い(課題)」に基づいた発表を行う。	知	・諸資料を利用して、冷戦のはじまりに関する重要人物や政策の内容を理解している。また、核兵器数の推移や保有状況の資料を利用して、冷戦の展開を理解している。	5
				思	・年間の学びから各自の課題に対する答えを見つけるため、資料を活用し、文献を参照し、学年末の発表の準備、表現方法について工夫している。	
				主	・年間の学びと各グループの発表から、日本が関わった戦争とそこから得られる今日の課題について、主体的に取り組み、自らの人間性を高め、将来のわが国を担う力を育んでいる。	

6 学習者へのメッセージなど

ここ数百年の日本の歴史は、国際世界の動きのなかで理解することが最も大切です。歴史総合では、日本と世界のつながりを中心に、19世紀末から20世紀にかけて、日本が関わったいくつかの戦争を学び、その中から課題を見つける科目です。その学びの過程は、今日に生きるわたしたちにとって、とても大切なものになるでしょう。あわせて、新聞をよく読み、報道やニュースに注目し、現代世界がどのように成り立っているのかを常に考えて毎日をご過して下さい。

年間授業計画

科目(講座名)	公共	単位	必修	学年	1年
教科書	『詳述 公共』 実教出版	教科担当			
副教材	『最新図説 公共』 浜島書店				

1 教科の目標

社会的な見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。

2 科目の目標

- (1) 現代社会の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- (2) 現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。
- (3) よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。

3 授業内容と学習方法

【学習内容】まず、「公共の扉」で、人間とは、自分自身とはについて、多面的・多角的に考察する。具体的には、青年期における様相、倫理主体としての個人について学ぶ。公共的な空間における原理として、幸福、正義、公正などに着目して、民主主義や法の支配、自由・権利と責任・義務などについて考えていく。そのうえで、法、政治、経済などの側面を関連させて、自立した主体としての解決が求められる課題を学んでいく。

【学習方法】授業では、原典や統計、写真、図などを用いて、その解釈を学ぶ。また、思考実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動を取り入れたり、自分の考えを表現する機会を設けたりする。具体的な課題の探究に関しては、ICTを活用して学習する。

4 評価方法並びに学習到達目標と評価の観点

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
学習到達目標並びに評価の観点	現代の諸課題を考察し、選択・判断する手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から必要な情報を適切かつ効果的に収集し、調べてまとめる技能を身に付けるようにする。	現実社会の諸課題の解決に向けて、手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し、公正に判断する力や合意形成・社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。	よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、公共的な空間に生き、国民主権を担う公民として平和を維持すること、国境を越えて市民が協力し合うことの大切さについての自覚を深める。
評価方法	定期考査 小テスト	定期考査 レポート ペアワーク発表 グループ討論	レポート 口頭発表 学習の振り返り

5 授業計画

期	月	学習内容	学習活動	評価規準	時数	
1 学期	4	第1編 公共の扉	第1章 社会を作る私たち	知	青年期の意義と特徴、防衛機制について理解している。社会参加やボランティアの意義、他者とともに協働して生きることの重要性について理解している。日本人の伝統的な自然観や倫理観について理解している。	4
	思			望ましい自己のあり方や自己形成について、多面的に考察し、適切に表現している。国際社会に生きるため、日本人が身に付けるべきものは何かを多面的に考察し、適切に表現している。		
	主			自らの体験などを振り返ることを通して、自らを成長させる人間として、社会に参画する自立した主体についての自覚を深めようとしている。		
	5	第2章 人間としてよく生きる	第2章 人間としてよく生きる	知	古代ギリシア人の追求した理想的な人間、三大世界宗教の教えの特徴、ルネサンスや宗教改革によって生まれた新しい人間観、カントやヘーゲル、功利主義、社会主義、実存主義、現代の思想家たちの幸福、公共性、公正、正義などについての考え方を理解している。	9
	思			倫理的価値の判断において、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方と、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方などを活用し、人間としての在り方生き方を多面的・多角的に考察し、表現している。		
	主			思考実験などに積極的に取り組んだり、先哲の考え方への深い理解を通して、公共的な空間における人間としての在り方生き方についての自覚を深めようとしている。		
	6	第3章 社会とは何か	第3章 社会とは何か	知	公共的な空間における基本原理として、人間の尊厳と平等、個人の尊重、自由・権利と責任・義務などについて理解している。世代間倫理の考え方を理解している。	4
	思			差別や偏見を是正するための取り組みについて、資料の読み取りなども行い、考察し、表現している。最後通牒ゲームを利用して、協働的に考察・構想し、適切に表現している。		
	主			思考実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動に積極的に取り組み、よりよい社会の実現を視野に、公共的な空間における基本的な原理について意欲的に理解しようとしている。		
	7	第4章 民主国家における基本原理	第4章 民主国家における基本原理	知	社会契約説、権力分立、法の支配、基本的人権の保障の拡大など、民主政治の誕生と発展について理解する。民主政治の諸原理は、議院内閣制、大統領制にどう反映しているか理解している。	3
	思			アメリカ独立宣言やフランス人権宣言などの資料から民主政治の基本原則について考察し、表現している。多数決の長所と短所について、協働的に考察・構想し、適切に表現している。		
	主			資料の読解やペアワークに積極的に取り組み、民主政治の基本原則について意欲的に理解しようとしている。		
学 期	8	第2編 よりよい社会の形成に参加する私たち	第1章 日本国憲法の基本的性格	知	法や規範の意義、大日本憲法と日本国憲法の相違点、平和主義、基本的人権(自由権、平等権、社会権、新しい人権)の保障についてその背景や課題とともに理解している。	7
	9			思	沖縄の基地問題、死刑制度の是非、在日外国人の権利などについて、協働的に考察・構想し、適切に表現している。	
	主			憲法や、我が国の安全保障、基本的人権について、主体的に追及して、その課題を意欲的に解決しようとしている。		
	10	第2章 日本の政治機構と政治参加	第2章 日本の政治機構と政治参加	知	国会、内閣、裁判所、地方自治の役割について理解している。我が国の選挙の特徴と課題、メディアやSNSが世論の形成にもたらす影響について理解している。	8
	思			日本の政治機構や違憲審査の在り方や裁判員裁判の課題、都市と地方の格差、公正な選挙のあり方、国政への民意の反映について、協働的に考察し、適切に表現している。		
	主			よりよい社会の実現を視野に、司法参加や政治参加の意義や、公正な世論の形成など現代社会の課題を主体的に追究して、意欲的に解決しようとしている。		

	11	第3章 現代の経済社会	知	資本主義経済における市場のしくみ、現代の企業、GDP や国富、景気循環、物価、金融、財政について、役割や影響を理解している。	9		
			思	大きな政府と小さな政府、需要と供給、市場の限界、CSR、GDP と豊かさ、金融政策と財政政策、キャッシュレス社会などについて、図やグラフを用いて考察したり、協働的に考察したりして、それらを適切に表現している。			
	主		市場メカニズムや豊かさの指標、中央銀行の役割、政府の役割などについて、主体的に追究して、課題を意欲的に解決しようとしている。				
	12		第4章 経済活動のあり方と国民福祉	知	消費者の権利と責任、雇用と労働、環境保全、日本の社会保障制度などについて理解している。	9	
				思	環境保全と経済成長、消費者主権、ワークライフバランス、社会保障制度の在り方などについて、多面的・多角的に考察し、協働的に考察・判断をし、適切に表現している。		
				主	将来世代も安心して暮らせる社会について、主体的に追究して、よりよい社会の実現を視野に、課題を意欲的に解決しようとしている。		
3 学期	1	第5章 国際政治の動向と課題 第6章 国際経済の動向と課題	知	主権国家と国際法、国連の活動について理解している。自由貿易のメリットと国際経済体制について理解している。	8		
			思	安全保障のジレンマや難民問題、比較生産費説について理解し、現実の国際社会の課題について、協働的に考察し、適切に表現している。			
	主		難民問題や保護主義的な動きなど近年のニュースに取り上げられている課題について関心を持ち、主体的に追究して意欲的に検討しようとしている。				
	2		第3編 持続可能な社会 づくりの主体となる 私たち	第3編 発表を行う	知	第一編で身に付けた選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本原理などを活用することができている。	3
					思	現代社会の諸課題の解決に向けて、必要な情報を収集し、読み取っている。また、事実を基に協働して考察・構想し、妥当性や効果、実現可能性などを指標にして、論拠を基に自分の考えを適切に説明している。	
					主	よりよい社会の実現を視野に、多面的・多角的な考察や深い理解を通して、現代社会の諸課題を主体的に解決しようとする学びに積極的に取り組もうとしている。	

6 学習者へのメッセージなど

今、社会は大きく変化しています。今後も情報化やグローバル化のスピードは速く、様々な変化がもたらされることでしょう。そんな中で、自ら情報を収集・分析し、課題を見つけ考察できることは、よりよく生きるために一生必要なことです。まずは、社会に興味を持って、ニュースに触れ、多角的に考える習慣をつけるようにしてください。そして、他者と協働する活動を楽しみながら、授業に参加してください。大学入学共通テストなど受験に利用する人は、3年次に必修で「政治・経済」を学ぶほか、選択科目として、「倫理」または「政経プラス」を選ぶと漏れがありません。

年間授業計画

科目(講座名)	数学 I	3単位	必修	学年	1年
教科書 副教材	数研出版 数学 I 数研出版 チャート式基礎からの数学 I + A 数研出版 サクシード数学 I + A 数研出版 データの分析ノート(短期完成)	教科担当			

1 教科の目標

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。
- (2) 数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。
- (3) 数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的に論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

2 科目の目標

数と式、図形と計量、2次関数及びデータの分析について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。

3 授業内容と学習方法

数と式、図形と計量、2次関数およびデータの分析について、中学校で学んだ初歩的な知識を土台として、さらに深く学ぶ。

授業では予習と復習を前提とし、「例」と「例題」の解説及び「問」の学習によって理解を深める。また、サクシードやチャートおよび大学入試の問題も扱い、教科書で学んだことの習熟を図り、応用力をつける。

4 評価方法並びに学習到達目標と評価の観点

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
学習到達目標並びに評価の観点	数と式、図形と計量、2次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。
評価方法	・定期考査、課題テスト	・定期考査、課題テスト	・ノートやレポートなどの提出物 ・出席状況、学習態度

5 授業計画

期	月	学習内容	学習活動		評価規準	時数
1 学 期	4	第1章 『数と式』	第1節「式の計算」 1. 多項式 2. 多項式の加法と減法および乗法 3. 因数分解	知	○多項式に関する用語を理解し、加法・減法・乗法について理解している。 ○公式を利用して展開や因数分解することができる。 ○式の形の特徴に着目して変形し、展開の公式が適用できるようにすることができる。また、因数分解を行うのに、文字のおき換えを利用することができる。	7
				思	○式の展開は分配法則を用いると必ずできることを理解している。 ○式を1つの文字におき換えることによって、式の計算を簡略化することができる。 ○複雑な式についても、項を組み合わせた、降べきの順に整理するなどして見通しをよくすることで、因数分解をすることができる。 ○式の形の特徴に着目して変形し、因数分解の公式が適用できるようにすることができる。	
				主	○単項式、多項式とその整理の仕方に関心をもち、考察しようとする。 ○多項式の加法・減法・乗法には、数の場合と同様に交換・結合・分配法則が使えることに関心をもち、考察しようとする。 ○式の変形、整理などの工夫において、よりよい方法を考察しようとする。 ○展開と因数分解の関係に着目し、因数分解の検算に展開を利用しようとする態度がある。	
			第2節「実数」 4. 実数 5. 根号を含む式の計算	知	○分数を循環小数で、循環小数を分数で表すことができる。 ○有理数、無理数、実数の定義を理解し、各範囲での四則計算の可能性について理解している。 ○絶対値の意味と記号表示を理解している。 ○根号を含む式の加法、減法、乗法の計算ができる。また、分母の有理化ができる。	5
				思	○実数を数直線上の点の座標として捉えられる。また、実数の大小関係と数直線に関係づけて考察することができる。 ○数直線上の2点間の距離を絶対値を用いて考えることができる。また、2つの実数の差の絶対値を数直線上の距離とみることができる。 ○根号を含む式の計算について、一般化して考察することができる。 ○対称式の値を求めるのに、分母の有理化や、式の変形を活用して考察することができる。	
				主	○今まで学習してきた数の体系について整理し、考察しようとする。 ○根号を含む式の計算公式を証明しようとする。 ○対称式、基本対称式の性質について考察しようとする。	
			第3節「1次不等式」 6. 1次不等式 7. 1次不等式の利用	知	○不等式の意味や性質を理解し、1次不等式を解くことができる。 ○連立不等式の意味を理解し、連立1次不等式を解くことができる。 ○絶対値の意味から絶対値を含む方程式や不等式を解くことができる。	7
				思	○不等式の性質を、数直線上の点と対応させて考察することができる。 ○ $A < B < C$ を $A < B$ かつ $B < C$ として捉えることができ、不等式を解くことができる。 ○身近な問題について、必要な条件を判断して1次不等式の問題に帰着させ、問題を解決することができる。	
				主	○不等式における性質について、等式の性質と比較して、考察しようとする。 ○不等式における解の意味について、方程式の解と比較して考察しようとする。 ○絶対値記号を含むやや複雑な方程式や不等式を解くことに取り組む意欲がある。	
	5	第2章 『集合と命題』	2. 命題と条件 3. 命題と証明	知	○命題の真偽、反例の意味を理解し、集合の包含関係や反例を調べることで、命題の真偽を決定することができる。 ○必要条件、十分条件、必要十分条件、同値の定義を理解している。 ○条件の否定、ド・モルガンの法則を理解しており、複雑な条件の否定が求められる。 ○命題の逆・対偶・裏の定義と意味を理解しており、それらの真偽を調べることができる。 ○対偶による証明法や背理法のしくみを理解している。	8
				思	○命題の真偽を、集合の包含関係に結びつけて捉えることによって考察することができる。 ○命題が偽であることを示すには、反例を1つあげればよいことが理解できている。 ○命題の条件や結論に着目し、命題に応じて対偶の利用や背理法の利用を適切に判断することで、命題を証明することができる。	
				主	○条件を満たすものの集合の包含関係が、命題の真偽に関連していることに着目し、命題について調べようとする態度がある。 ○命題の逆・裏・対偶の関係が条件を満たす集合の関係に対応していることに着目し、これらについて考察しようとする。 ○直接証明法では難しい命題も、対偶を用いた証明法や背理法を用いると鮮やかに証明できることに興味・関心をもち、実際に証明しようとする。	

6	第3章 『2次関数』	第1節「2次関数とグラフ」 1. 関数とグラフ 2. 2次関数のグラフ 3. 2次関数の最大と最小 4. 2次関数の決定	知 ○平方完成を利用して、2次関数のグラフの軸と頂点を調べ、グラフをかくことができる。 ○放物線の平行移動や対称移動の一般公式を活用して、移動後の放物線の方程式を求めることができる。 ○2次関数の定義域に制限がある場合に、最大値、最小値を求めることができる。 ○2次関数の決定において、与えられた条件を関数の式に表現し、2次関数を決定することができる。 ○連立3元1次方程式の解き方を理解している。	15
			思 ○2次関数の特徴について、表、式、グラフを相互に関連付けて多面的に考察することができる。 ○定義域が変化するときや、グラフが動くときの最大値や最小値について、考察することができる。 ○具体的な事象の最大・最小の問題を、2次関数を用いて表現し、処理することができる。 ○2次関数の決定において、条件を処理するのに適した式の形を判断することができる。	
			主 ○放物線の平行移動や対称移動の一般公式を考察しようとする。 ○日常生活における具体的な事象の考察に、2次関数の最大・最小の考えを活用しようとする。 ○2次関数の決定条件に興味、関心をもち、考察しようとする。	
7		第2節「2次方程式と2次不等式」 5. 2次方程式 6. グラフと2次方程式 7. グラフと2次不等式	知 ○2次方程式の解き方として、因数分解、解の公式を理解している。 ○2次方程式において、判別式の符号と実数解の個数の関係を理解している。 ○2次関数のグラフとx軸の共有点の座標や個数を求めることができる。 ○2次不等式を解くことができる。 ○2次の連立不等式を解くことができる。 ○2次不等式を利用する応用問題を解くことができる。	14
			思 ○2次方程式が実数解や重解をもつための条件を式で示すことができる。 ○2次関数のグラフとx軸の共有点の個数や位置関係を、判別式の符号から考察することができる。 ○2次関数の値の符号と2次不等式の解を相互に関連させて考察することができる。 ○2次式が一定の符号をとるための条件を、グラフと関連させて考察することができる。	
			主 ○2次方程式がどんな場合でも解けるように、解の公式を得て、それを積極的に利用しようとする。 ○2次関数のグラフとx軸の位置関係を調べ、その意味を探ろうとする。 ○1次関数と2次不等式の関係から、2次不等式の場合を考えようとする。 ○身近な問題を2次不等式で解決しようとする。	
2 学 期	第5章 『データの分析』	1. データの整理 2. データの代表値 3. データの散らばりと四分位範囲 4. 分散と標準偏差 5. 2つの変量の間の関係 6. 仮説検定の考え方	知 ○度数分布表、ヒストグラムについて理解している。 ○平均値や中央値、最頻値の定義や意味を理解し、それらを求めることができる。 ○範囲や四分位範囲の定義やその意味を理解し、それらを求めることができる。また、データの散らばりを比較することができる。 ○箱ひげ図をかき、データの分布を比較することができる。 ○分散、標準偏差の定義とその意味を理解し、それらに関する公式を用いて、分散、標準偏差を求めることができる。 ○相関係数の定義とその意味を理解し、定義にしたがって求めることができる。 ○仮説検定の考え方を理解し、具体的な事象に当てはめて考えることができる。	9
			思 ○データの散らばりの度合いをどのように数値化するかを考察することができる。 ○データの中に他の値から極端にかけ離れた外れ値が含まれる場合について、外れ値の背景を探ることの利点を考察することができる。 ○外れ値を見出す意義を理解し、外れ値の統計量への影響について考察することができる。 ○変量の変換によって、平均値や標準偏差がどのように変化するかを考察することができ、それらの性質を活用して平均値や分散を見通しよく計算することができる。 ○データの相関について、散布図や相関係数を利用してデータの相関を的確に捉えて説明することができる。 ○複数のデータを、散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析し、問題解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりすることができる。 ○不確実な事象の起こりやすさに着目し、実験などを通して、問題の結論について判断したり、その妥当性について批判的に考察したりすることができる。	
			主 ○データを整理して全体の傾向を考察しようとする。 ○データの代表値から、その特性や傾向などを考察しようとする。 ○データの散らばりの度合いをどのように数値化するかを考察しようとする。 ○変量の変換によって、平均値や標準偏差がどのように変化するか、考察しようとする。 ○相関関係の大きさを数値化する方法を考察しようとする。	

				主	○相関関係と因果関係の違いについて考察しようとする。 ○身近な事柄において、仮説検定の考え方を活用して判断しようとする態度がある。	
	10	第4章 『図形の計量』	第1節「三角比」 1. 三角比 2. 三角比の相互関係 3. 三角比の拡張	知	○直角三角形において、正弦、余弦、正接が求められる。 ○直角三角形の辺の長さを三角比で表す式を理解し、測量などの応用問題に利用できる。 ○座標を用いた三角比の定義を理解し、一般角の三角比を求めることができる。 ○一般角まで拡張されても、三角比の値から θ を求めることができる。また、相互関係を活用して1つの三角比の値から残りの値を求めることができる。 ○三角比の性質の公式が利用できる。	9
	11		第2節「三角形への応用」 4. 正弦定理 5. 余弦定理 6. 正弦定理と余弦定理の応用	知	○正弦定理や余弦定理を用いて、三角形の辺の長さや角の大きさを求めることができる。 ○三角比を用いた三角形の面積を求める公式を理解している。 ○3辺が与えられた三角形の面積を求めることができる。 ○3辺が与えられた三角形の内接円の半径を求めることができる。 ○三角比を利用して、正四面体などの体積を求めることができる。 ○三角比を測量に応用できる。	12
	12		7. 三角形の面積 8. 空間図形への応用	思	○三角形の辺と角、外接円の半径の間に成り立つ関係式として、正弦定理を導くことができる。 ○三角形の辺と角の間に成り立つ関係式として、余弦定理を導くことができる。 ○三角形の辺の長さや角の大きさと余弦定理との関係を考察することができる。 ○余弦定理を三角形の形状決定と関連させて考察することができる。 ○三角形の面積を2つの三角形の面積の和として表現し、線分を求める問題に活用することができる。 ○円に内接する四角形の面積を求める方法を考察することができる。 ○空間図形への応用において、適当な三角形に着目して考察することができる。	
				主	○日常の事象や社会の事象などに三角比を活用しようとする。 ○三角比の相互関係を調べようとする。 ○これまでに学習している数や図形の性質に関する拡張と対比し、三角比を鋭角から一般角まで拡張して考察しようとする。	
3 学 期	1			知		
	2			思		
				主		
				知		
	3			思		
				主		
			知			

6 学習者へのメッセージなど

数学の実力をつけるために最も大切なことは、時間をかけてじっくりと考えることです。教科書は最小限の内容と心得て、参考書やプリントなどの教科書+αの内容の問題演習を必ず行ってください。また、数学は積み重ねの教科です。中学校で学習した内容や日々の授業で学んだ内容に漏れがあると授業についていけなくなりますので、授業の予習と復習を怠らない学習姿勢で臨んでください。

年間授業計画

科目（講座名）	生物基礎	2単位	必修	対象 学年	1年
教科書 副教材	生物基礎 改訂版（啓林館） スクエア最新図説生物neo（第一学習社） セミナー生物基礎＋生物（第一学習社）	教科担当			

1 教科の目標

1. 生命現象に興味を持ち、進んで学習しようとする意欲を持つこと。
2. 生物学的な基本概念を形成し、さまざまな知識を受け入れる素地を形成すること。
3. 生物の学習を通して、効率の良い学習法を身につけること。

2 科目の目標

1. 生命現象に興味を持ち、進んで学習しようとする意欲を持つこと。
2. 生物学的な基本概念を形成し、さまざまな知識を受け入れる素地を形成すること。
3. 生物の学習を通して、効率の良い学習法を身につけること。

3 授業内容と学習方法

中学校で習った内容を踏まえ、教科書の順序の通り行っていく。3学期には発展的な内容として「生殖と発生」を取り扱う。授業では、研究者が実験していく過程でどのように発想、思考したか、また研究の積み重ねが現代の生命科学の基礎知識をどのように構築してきたかなどの観点を常にイメージしながら受けるよう心掛ける。そのためには、教科書に書かれた内容の他に授業中に話された内容についての、授業時間内に十分理解する姿勢で参加してほしい。かなり発展的な内容も取り入れていくので、進度が通常に比べて速くなる。

4 評価方法並びに学習到達目標と評価の観点

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
学習到達 目標並び に評価の 観点	生物学の基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	学習内容や日常の現象において問題を見だし見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に考察し表現しているなど、科学的に探究している。	生物に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の取り組み ・テスト ・レポート 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の取り組み ・テスト ・レポート 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の取り組み ・テスト ・レポート

5 授業計画

期	月	学習内容	学習活動	評価規準	時数
1 学期	4	第1部 生物の特徴	<ul style="list-style-type: none"> 生物の多様性と共通性 生命活動とエネルギー 	知 <ul style="list-style-type: none"> 生物が「細胞からできている」、「遺伝情報としてDNAをもっている」、「生命活動にはエネルギーが必要」などの共通性をもつことを理解する。 生物のもつ共通性は共通の祖先に由来することを理解する。 生命活動にはエネルギーが必要であり、そのエネルギーはATPから供給されていることを理解する。 ATPが生命活動にエネルギーを供給するしくみについて理解する。 呼吸・光合成の過程でATPが合成されることを理解する。 酵素の触媒作用と基質特異性について理解する。 生体内の化学反応が、酵素のはたらきによって進行していることを理解する。 	10
	5			思 <ul style="list-style-type: none"> さまざまな哺乳類の比較に基づいて、生物が生息環境に適した形態や機能をもっていることに気づき、説明できる。 今までに得た知識を活用して、哺乳類に見られる共通性について説明できる。 系統樹を正しく読み取ることができる。 さまざまな生物の比較に基づいて、すべての生物に見られる特徴について考え、共通性を見いだすことができる。 生物と無生物を見分け、理由について「生物の共通性」をもとに説明できる。 ヒトがエネルギーを取り入れる方法について説明できる。 今までに得た知識を活用して、植物が有機物を得る方法について説明できる。 	
	6			主 <ul style="list-style-type: none"> 生物の多様性と共通性に関心をもち、主体的に学習に取り組める。 エネルギーと代謝に関心をもち、主体的に学習に取り組める。 呼吸と光合成に関心をもち、主体的に学習に取り組める。 	
	7	第2部 遺伝子とその働き	<ul style="list-style-type: none"> 生物と遺伝子 遺伝情報の分配 遺伝情報とタンパク質の合成 	知 <ul style="list-style-type: none"> DNAの構造および塩基の相補性を理解する。 DNAの塩基配列が遺伝情報となっていることを理解する。 体細胞分裂の過程でDNAが複製され、分配されることを理解する。 DNAの遺伝情報を元にタンパク質が合成される転写・翻訳の過程を理解する。 分化した細胞では、細胞ごとに異なる遺伝子が発現していることを理解する。 	10
	7			思 <ul style="list-style-type: none"> DNAの構造の模式図をもとに、DNAが4種類の塩基からなること、塩基の結合はAとT、GとCの間で起こるといふ規則性に気づき、説明できる。 複製前後のDNAの模式図を比較し、DNAの正確な複製には塩基の相補性が利用されていることに気づき、説明できる。 アミノ酸配列と、それを指定するDNAの塩基配列を示した資料をもとに、塩基3個がアミノ酸1個に対応していること、塩基3個の配列が同じであれば同じアミノ酸が指定されることに気づき、説明できる。 同じ遺伝情報をもつ受精卵から、異なる形やはたらきをもつ細胞が分化することに気づき、説明できる。 自分とチンパンジー、自分とほかの人のゲノムの塩基配列の違いについて、本やインターネットなどを活用し、調べることができる。 	
	2 学期	9	第3部 ヒトの体の調節	<ul style="list-style-type: none"> 体内環境 体内環境の調節 免疫 	知 <ul style="list-style-type: none"> 体内での情報伝達が、からだの状態の調節に関係していることを理解する。 自律神経系と内分泌系が、からだを調節するしくみを理解する。 自律神経系と内分泌系のはたらきによって血糖濃度が調節されるしくみを理解する。 糖尿病の原因を理解する。 自然免疫・適応免疫のしくみと、それにはたらき細胞の役割を理解する。 免疫記憶のしくみを理解する。 免疫のはたらきが低下したり過敏になったりすることで起こる病気や、免疫のしくみを利用した医療について理解する。
10		思 <ul style="list-style-type: none"> 運動によって心拍数が増加するしくみを考察し、説明できる。 健康な人の食事の前後における血糖濃度・インスリン濃度のグラフをもとに、血糖濃度とインスリン分泌の関係に気づき、説明できる。 健康な人と糖尿病患者の食後の血糖濃度・インスリン濃度のグラフの比較に基づいて、糖尿病患者の血糖濃度が低下しない理由を考察し、説明できる。 糖尿病の原因を正しく理解したうえで、原因に応じた治療方法を考え、まとめることができる。 細菌に感染した部位の顕微鏡写真をもとに、免疫のはたらきを考察できる。 同じ抗原が2回体内に侵入したときの抗体産生量のグラフから、抗体産生の速さや抗体量の違いを読み取り、説明できる。 免疫の学習内容をもとに、未知の病原体に対する免疫のはたらきを考察し、自分の考えを述べることができる。 			
10		主 <ul style="list-style-type: none"> 体内での情報伝達と調節に関心をもち、主体的に学習に取り組める。 体内環境の維持のしくみに関心をもち、主体的に学習に取り組める。 免疫のはたらきに関心をもち、主体的に学習に取り組める。 			

2 学 期	11	第4部 生物の多様性と 生態系	<ul style="list-style-type: none"> ・植生の多様性と分布 ・気候とバイオーム ・生態系とその保全 	知	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな植生とその特徴を理解する。 ・植生の遷移の過程と、遷移が進行する要因について理解する。 ・世界および日本に見られるさまざまなバイオームが、気温と降水量の違いに起因して成立していることを理解する。 ・日本に分布するバイオームについて理解する。 ・生態系がどのように構成されているのかを理解する。 ・生態系において種多様性が維持されるしくみを理解する。 ・生態系のバランスが保たれているとはどのような状態かを理解する。 ・生態系の保全のために、どのような活動が行われているかを理解する。 	12
	12			思	<ul style="list-style-type: none"> ・遷移の過程を示した資料をもとに、遷移の過程で裸地から低木林に移り変わる要因、植生の樹種が交代する要因について考察し、説明できる。 ・長い年月をかけて進行する植生の遷移を調べるには、どのような方法が考えられるか、自分の考えをまとめることができる。 ・気温・降水量と陸上のおもなバイオームの関係を示した資料をもとに、森林・草原・荒原のいずれになるかを決める要因に気づき、説明できる。 ・日本の気候の特徴をもとに、日本に分布するバイオームについて考察し、説明できる。 ・標高の高い場所で森林が見られない理由を考察し、説明できる。 ・生態系における個体数の変化を調べた実験結果に基づき、ある生物が種多様性に対して果たす役割を考察し、説明できる。 ・生活排水の流入による生物の個体数と水質の変化のグラフをもとに、自然浄化のしくみを考察し、説明できる。 ・外来生物の移入前後の在来魚の漁獲量の変化を示した資料をもとに、外来生物が在来魚に与えた影響を考察し、説明できる。 ・生態系への影響が予想される開発行為について、さまざまな観点・立場で考え、話し合い、解決策を模索することができる。 	
3 学 期	1	(生物) 第2部 生殖と発生	<ul style="list-style-type: none"> ・動物の生殖と発生 ・発生のしくみ 	知	<ul style="list-style-type: none"> ・課題についての情報の収集・検索、計測・制御、結果の集計・処理などに際し、コンピュータなどの効果的な活用が図れる。 ・動物について、配偶子のでき方を理解している。 ・発生のしくみについては、結果としてわかっていることを覚えているだけでなく、実験によって、そのしくみが次第に明らかになってきた過程を理解している。 	13
	2			思	<ul style="list-style-type: none"> ・受精については、生殖細胞の合体により染色体数が復元し、新しい体細胞のものができる過程として説明できる。 ・動物の発生とそのしくみについては、ヒトとの共通点のあるウニやカエルについて学習し、形態形成運動や誘導などの働きによって複雑なからだのつくりができあがっていく過程を理解しようとする。 ・生殖細胞がつけられる過程と意義を科学的に考察できる。 ・発生の過程が、ヒトをはじめとした多くの生物に共通するものであることを実証的・論理的に分析し、総合的に考察し、表現することができる。 	
	3			主	<ul style="list-style-type: none"> ・生殖とはどのようなことか、無性生殖と有性生殖に分け、それぞれの意義について関心をもち、意欲的に理解しようとする 	

6 学習者へのメッセージなど

1年生のうちに、学習する楽しさを身につけてください。様々な知識が身につくとは、知識が増えることだけではなく、一つの事象に対して異なる視点から見つめることができる能力を養うことを意味します。生物に限らず、どんな科目の中にも面白いと思える何か必ずあり、それを見つけ、知ろうとする意欲を大切にすると、効率の良い学習法が自然に身に付きます。

生物の世界はものすごく多様です。すべてを知ることはできません。しかし、生物というくりがあるということは共通する部分があるということです。生物に共通する部分はなんなのか、考えていきましょう。生物を学習するという事は、自分自身も生物なのですから、自分自身を知ることになります。非常に身近な学問です。

まずは、授業を真剣に聞いてみる。そこからみなさんの「勉強は自分でやる」力を養っていきましょう！

年間授業計画

科目(講座名)	「体育」	単位	3 単位必修	学年	1 学年
教科書、副教材	大修館「新高等 保健体育」	教科担当			

1 教科の目標

体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。
- (2) 運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。
- (3) 生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かかで活力ある生活を営む態度を養う。

2 体育科目の目標

体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 各種の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。
- (2) 生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。
- (3) 運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。

3 保健体育の科目及び内容構成

保健体育	
「体育」	「保健」
体づくり運動 (1)知識及び運動 (2)思考力、判断力、表現力 (3)学びに向かう力、人間性	現代社会と健康 ア イ
器械運動 (1)知識及び技能 (2)思考力、判断力、表現力 (3)学びに向かう力、人間性	安全な社会生活 ア イ
陸上競技 (1)知識及び技能 (2)思考力、判断力、表現力 (3)学びに向かう力、人間性	生涯を通じる健康 ア イ

水泳	(1)知識及び技能 (2)思考力、判断力、表現力 (3)学びに向かう力、人間性	健康を支える環境づくり ア イ
球技	(1)知識及び技能 (2)思考力、判断力、表現力 (3)学びに向かう力、人間性	
武道	(1)知識及び技能 (2)思考力、判断力、表現力 (3)学びに向かう力、人間性	
ダンス	(1)知識及び技能 (2)思考力、判断力、表現力 (3)学びに向かう力、人間性	
体育理論	ア イ ウ	

4 授業内容と学習方法

	知識及び技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性等
学習到達 目標並び に評価の 観点	<p>【知識】 運動を継続する意義や、体の構造、運動の原則などを理解すること、技術や名称や行い方を理解すること、体力の高め方を理解すること、伝統的な考え方を理解すること、競技会、試合、発表の仕方や文化的背景を理解し学ぶこと、運動観察の方法や見取り稽古の仕方を学ぶこと</p> <p>【技能】 運動種目などの固有の技能や動きを身に付けさせること、各領域の特性や魅力に応じた楽しさや喜びを味わうことができるようにすること</p>	合理的な動きと比較し成果や改善すべきポイントと理由を伝えようとする こと、課題解決のための計画を立て練習方法など仲間に伝えること、危険を回避するための活動の仕方を提案すること、よりよいルールやマナーについて提案すること、状況に応じて役割を提案すること、合意形成のためにかかわり方を見付け、調整すること、一人一人の違いを越えて楽しむための調整の仕方を見付けること、運動を継続して楽しむためのかかわり方を見付けること、	自主的・主体的に取り組もうとすること、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとする こと、フェアプレイを大切にしようとする こと、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を大切にしようとする こと、良い演技を讃えようとする こと、互いに助け合い高め合おうとすること、自己の責任を果たそうとすること、合意形成に貢献しようとする こと、一人一人の違いを大切にすること、健康・安全を確保すること
具体的な 評価方法	①タブレット活用によるレポート ②タブレット活用によるルールテスト ③技能テスト	①タブレットを活用したグループワーク ②タブレットを活用した課題解決学習レポート	①自己振り返りノート ②レポート ③グループワーク ④指導側からの観察

**(1) 自主的・創造的精神に満ちた国家及び社会の有為な形成者の育成
リーダーとして国際社会に貢献できる人の育成**

⇒そのためには

- ・健康があって初めてエネルギーに活動できるので、基礎体力の定着を目指す
- ・健康とはどういう状況のことなのかを心と体のバランスをしっかりと探求し、自分を客観的に理解する力を育てる
- ・自分を知り、特性を生かす
- ・技能の習得はもちろんだが、思考力・判断力・表現力をより重視する授業展開
- ・何事にも粘り強く、立ち向かえるたくましさややり抜ける力を育成する

(2) 探究活動による深い学びの実践

情報活用力・探求力・情報発信能力・傾聴力・行動力・想像力の6つの力の資質・能力を育てる

⇒そのためには

- ・必修領域以外の種目の選択授業を導入
- ・男女共習による共生の意識改革
- ・性別・障害の有無に関係なく互いを認め合い高めあえる心と体の育成
- ・運動を実践する中で、常に批判的思考を育成し、メタ認知できる自己判断能力を育成
- ・公正・協力・責任・参画の場をしっかりと設定し、学びに向かう人間力の育成を強化する
- ・技能の習得はもちろんだが、思考力・判断力・表現力をより重視する授業展開(上の項でも記しました)

(3) カリキュラムマネジメントを通して学問に対する興味・関心を深め自ら学ぶ意欲を向上させる

⇒そのためには

- ・教科の横断的な学び方を通し、保健体育分野でも新たな関心を深められるような授業を展開する(特に保健分野)
- ・自分に合った運動を見つけ長く続けられるような具体的な方法や意思決定能力を育てる

6 授業計画

期	月	学習内容	学習活動	評価規準	時数
1 学期	4	領域 C 陸上競技 (男女共習)	(1)短距離・リレー	知 技 各種目の技能の習得、記録の相対的評価 器具の名称の理解、ルールの理解 思 判 表 学 習 タブレットに慣れ、活用しようとする、タブレットを 活用しながら課題を発見し、解決に向けて思考す る、気が付いたことを他者に伝えようとする 授業への参加意欲を自己評価する、運動観察の 方法を工夫し、積極的な参画をしようとする	20
	5		(2)投てき (3)走り幅跳び (1)(2)(3)全種目を全員 選択		
	6	領域 D 水泳 (習熟度別学習)	(1)クロール泳法	知 技 各種目の技能の習得、記録の相対的評価 泳法の名称理解、体力の高め方の理解 運動観察方法、ルールの理解 思 判 表 学 習 泳法について、課題を発見し、解決に向けて思考 する、合理的な課題解決を目指す、 気が付いたことを他者に伝えようとする 授業への参加意欲を自己評価する、運動観察の 方法を工夫し、積極的な参画をしようとする	12
	7		(2)平泳ぎ泳法 (3)バタフライ泳法 (4)背泳ぎ泳法 (5)室内トレーニング		

6	領域 H 体育理論	豊かなスポーツライフ の設計 (1)生涯スポーツの見 方・考え方 (2)ライフスタイルとスポ ーツの楽しみ方	知 スポーツには乳幼児期から高齢期に至るライフ ステージごとに、体格や体力の変化などにみられる 身体的特徴、精神的ストレスの変化などにみられ る心理的特徴、人間関係や所属集団の変化につ いてみられる社会的特徴など、いろいろな特徴に 応じた多様な楽しみ方があることについて理解す る 個人のスポーツ経験や学習によって育まれたス ポーツに対する欲求や考え方、健康や体力を求 める必要性や個人の健康目標などによっても変 化するものであることについて理解する	3	
		スポーツの学び方 (1)体カトレーニング	思 判 表 ライフステージにおけるスポーツの楽しみ方やラ イフスタイルに応じたスポーツとの関わり方につ いて、自己や自己を取り巻く環境の変化を予想し て豊かなスポーツライフが広がる未来の社会に ついて、これまで学習したことをもとに、将来の自 己のスポーツ設計を提案しようとしている、自己 の提案を言葉や文章などを通して他者に伝えよ うとしている	3	
	A 領域 体づくり	仲間と協力して課題を 達成するなど、集団で 挑戦するような運動を おこなう	学 び 豊かなスポーツライフの設計の仕方についての 学習に主体的に取り組もうとしている	3	
		知 体力とトレーニングの基礎理論について理解で きる、目的に応じた様々なトレーニングの方法を理 解する	思 判 表 運動やスポーツの技能は、体力と相互に関連し ており、技能は身長や体重などの体格や巧みさ などの体力との関連で発揮されることについて理 解したことを言ったり書いたりしようとしている、 運動やスポーツの効果的な学習の仕方について 主体的に取り組もうとしている	3	
7		知 運動を行うことを通して、気付いたり関わり合っ たりする	思 判 表 自己や仲間の課題を発見し、解決に向けて運動 の取り組み方を工夫しようとする、他者に自己の 考えたことを伝えようとする	3	
		学 び 課題解決の話し合いに貢献しようとしている			
夏 休 み	8	D 領域 水泳			
2 学 期	9	D 領域 水泳	(1)クロール泳法 (2)平泳ぎ泳法 (3)バタフライ泳法 (4)背泳ぎ泳法 (5)室内トレーニング	知 各種目の技能の習得、記録の相対的評価 泳法の名称理解、体力の高め方の理解 運動観察方法、ルールの理解 思 判 表 泳法について、課題を発見し、解決に向けて思考 する、合理的な課題解決を目指す、 気が付いたことを他者に伝える	6
			学 び 授業への参加意欲を自己評価する、運動観察の 方法を工夫し、積極的な参画をしようとする		
	B 領域 体操競技 D 領域 陸上競技 (男女共習)	(1)マット運動 (2)障害走 (3)走り高跳び (1)(2)(3)の 2 領域 3 種 目から 1 種目選択	知 各種目の技能の習得、記録の相対的評価 器具の名称の理解、ルールの理解 思 判 表 自己や仲間の課題を発見し解決に向けて思考す る、気が付いたことを他者に伝える、タブレットを 活用し他者と運動観察をおこなおうとしている	10	
		学 び 授業への参加意欲を自己評価する、運動観察の 方法を工夫し、積極的な参画をしようとする			
10	E 領域 球技 (男女共習)	(1)ネット型のうち 3 種 目(バレーボール、テニ ス(雨天時卓球)、バド ミントンから 1 種目選択	技 捨う、つなぐ、打つなどの一連の流れで攻撃を組 み立てられるようにする、役割に応じたボールの 操作ができるようにする、 ルールの理解、用具の理解 知 思 判 表 攻防において自己やチームの課題を発見し、運 動の取り組み方を工夫している、自己の考えたこ とを他者に伝えようとしている	20	
11		(2)ゴール型のうち 1 種 目(サッカー、バスケット ボール)のいずれかを 選択	学 び 球技に自主的に取り組む フェアなプレイを大切にしようとしている 作戦など話し合いに貢献しようとしている 一人一人の違いに応じたプレイを大切にしよう としている		

	12	F 領域 武道 G 領域 ダンス (男女共習)	(1)剣道(2)現代的なリズムのダンスのどちらも選択(クラス選択)	互いに助け合い教え合おうとしている	
				知 伝統的な考え方、技の名称理解、見取り稽古の仕方、体力の高め方の理解 技 基本動作習得、技の習得 思 自己や仲間の課題を発見し解決に向けて思考する、気が付いたことを他者に伝える、タブレットを活用し他者と運動観察をおこなおうとする 判 表 学 授業への参加意欲を自己評価する、運動観察の方法を工夫し、積極的な参画をしようとする び	
3 学期		F 領域武道 G 領域ダンス	つづき		12
	1	C 領域 陸上競技	長距離走	知 各種目の技能の習得、記録の相対的評価 体力の高め方の理解 技 運動観察方法、ルール理解 思 自己や仲間の課題を発見し、解決に向けて思考する、合理的な課題解決を目指す、 判 気が付いたことを他者に伝える 表 学 授業への参加意欲を自己評価する、運動観察の方法を工夫し、積極的な参画をしようとする び	12
	2				
	3	E 球技	(1)ネット型のうち3種目(バレーボール、テニス(雨天時卓球)、バドミントンから1種目選択)	技 拾う、つなぐ、打つなどの一連の流れで攻撃を組み立てられるようにする、役割に応じたボールの操作ができるようにする、 知 ルール理解、用具理解 思 攻防において自己やチームの課題を発見し、運動の取り組み方を工夫している、自己の考えたことを他者に伝えようとしている 判 表 学 球技に自主的に取り組む び フェアなプレイを大切にしようとしている 作戦など話し合いに貢献しようとしている 一人一人の違いに応じたプレイを大切にしようとしている 互いに助け合い教え合おうとしている	4

7 学習者へのメッセージなど

令和4年度より新学習指導要領がスタートする関係で、保健体育の授業の在り方も大きく変容します。体力や技能の程度及び性別の違いに関わらず、仲間とともに学ぶ体験を通して生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現を目指します。また、運動に関する自己や仲間の課題を発見し、課題解決に向けて仲間とともに真摯に取り組む資質・能力の向上を目指します。をしたがって体育の授業への取り組み方として、どのように自己の課題や仲間やチームの課題に対して実直に取り組む、互いを認め合い話し合ったりして主体的に授業へ参画しているかが大切になり、授業毎に評価していきます。保健体育の授業を通して、道徳性や人間性をさらに育み、人間として大きく成長することを期待します。

年間授業計画

科目(講座名)	「保健」	単位	必修・1単位	学年	1年
教科書 副教材	大修館「新高等 保健体育」	教科担当			

1 教科の目標

<p>体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を次の通り育成することを目指す。</p> <p>(1) 各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う</p> <p>(3) 生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力のある生活を営む態度を養う。</p>
--

2 科目の目標

<p>保健の見方・考え方を働かせ、合理的・計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を次の通り育成する。</p> <p>(1) 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う</p> <p>(3) 生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力のある生活を営む態度を養う。</p>

3 授業内容と学習方法

<p>本校の保健のねらいは、健康や安全に関して理解を深め、日常生活に活かすことができるようになることである。週1時間ではあるが、1年生では「現代社会と健康」を中心に個人と社会生活と健康の関わりについて学習していく。保健の内容は心身共に健康に成長する過程で、必要不可欠な内容ばかりである。健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養うために、グループワーク、レポートの作成や研究発表を行うなどの形式も組み込まれる。</p> <p>学期毎に1回の定期テストで(ア)健康の考え方、(イ)現代の感染症とその予防、(ウ)生活習慣などの予防と回復、(エ)喫煙、飲酒、薬物乱用と健康、(オ)精神疾患の予防と回復、(カ)安全な社会づくり、(キ)応急手当のそれぞれで、知識理解力、現代社会と健康および安全な社会生活について、課題を発見し、健康や安全に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断するとともにそれらを表現できる力など、授業への主体的取り組みを評価していく。</p>
--

4 評価方法並びに学習到達目標と評価の観点

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
学習到達目標並びに評価の観点	健康の考え方について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、理解したことを言ったり書いたりしている	健康の考え方について自他や社会の課題を発見している。データや資料に基づいて分析し、課題解決の方法を主体的に取り組み筋道立てて説明し、他者に伝わるように表現しようとしている	健康の考え方について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている

評価方法	活動中の様々な場面で取得する情報の中から、重要な情報を主体的に判断し、選択することができる。複数の知識・技能や自己の経験と統合することで、目的に合った解決策を見出すことができる。習得した知識・技能を使って、課題を解決することができる	他者と協働しながら課題をより良く解決しようとしている。自己の解決策を筋道立てて他者に説明し、理解してもらおうと努力している。自分がとるべき行動を理解し課題解決のために周囲を巻き込んで行動しようとしている。未知の状況でも目的を達成するための手段を創造し、他者により影響を及ぼそうとしている	授業を通して健康に興味関心を持ち、あらゆることに探求心を持って授業に主体的に取り組もうとしている
------	--	---	--

5 授業計画

期	月	学習内容	学習活動		評価規準	時数	
1 学期	4		日本における健康課題の変遷	知	健康水準の向上、疾病構造の変化に伴い、個人や集団の健康についての考え方も変化してきていることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。免疫、遺伝、生活行動などの主体要因と、自然、経済、文化、保健・医療サービスなどの環境要因が互いに影響し合いながら健康の成立に関わっていることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。	2	
				思	健康の考え方について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。国民の健康課題について、我が国の健康水準の向上や疾病構造の変化に関するデータや資料に基づいて分析し、生活の質の向上に向けた課題解決の方法をヘルスプロモーションの考え方を踏まえて整理し、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。		
				主	健康の考え方について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。		
		5	ヘルスプロモーションと健康に関わる環境づくり 健康に関する意思決定・行動選択	健康の考え方と成り立ち	知	我が国の死亡率、受療率、平均寿命、健康寿命など各種の指標や疾病構造の変化を通して国民の健康課題について、理解したことを言ったり書いたりしている。健康水準、及び疾病構造の変化には、科学技術の発達、及び生活様式や労働形態を含む社会の状況が関わっていることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。	2
				思	国民の健康課題について、我が国の健康水準の向上や疾病構造の変化に関するデータや資料に基づいて分析し、生活の質の向上に向けた課題解決の方法をヘルスプロモーションの考え方を踏まえて整理している。		
				主	健康の考え方について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。		
			健康を保持増進するには、ヘルスプロモーションの考え方に基づき、適切な意思決定や行動選択により、疾病等のリスクを軽減することを含め、自らの健康を適切に管理することが必要であるとともに、環境づくりが重要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。適切な意思決定や行動選択には、個人の知識、価値観、心理状態、及び人間関係などを含む社会環境が関連していることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。健康を保持増進するための環境には、自然環境、及び政策や制度、地域活動などの様々な社	3			

6	7		思	<p>会環境があることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</p> <p>健康の考え方について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。</p>	5
			主	<p>健康の考え方について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。</p>	
		現代における感染症の問題	知	<p>感染症は、時代や地域によって自然環境や社会環境の影響を受け、発生や流行に違いが見られること、その際、交通網の発達により短時間で広がりがやすくなっていること、また、新たな病原体の出現、感染症に対する社会の意識の変化等によって、腸管出血性大腸菌(O 157 等)感染症、結核などの新興感染症や再興感染症の発生や流行が見られることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</p> <p>感染症のリスクを軽減し予防するには、衛生的な環境の整備や検疫、正しい情報の発信、予防接種の普及など社会的な対策とともに、それらを前提とした個人の取組が必要であること、エイズ及び性感染症についても、その原因、及び予防のための個人の行動選択や社会の対策について、理解したことを言ったり書いたりしている。</p>	
		思	<p>現代の感染症とその予防について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。</p> <p>感染症の発生や流行には時代や地域によって違いがみられることについて、事例を通して整理し、感染のリスクを軽減するための個人の取組及び社会的な対策に応用している。</p>		
			主	<p>現代の感染症とその予防について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。</p>	
		生活習慣病の予防と回復	知	<p>がん、脳血管疾患、虚血性心疾患、高血圧症、脂質異常症、糖尿病などを適宜取り上げ、これら生活習慣病などのリスクを軽減し予防するには、適切な運動、食事、休養及び睡眠など、調和のとれた健康的な生活を続けることが必要であること、定期的な健康診断やがん検診などを受診することが必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。がんは、肺がん、大腸がん、胃がんなど様々な種類があり、生活習慣のみならず細菌やウイルスの感染などの原因もあることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。生活習慣病などの予防と回復には、個人の取組とともに、健康診断やがん検診の普及、正しい情報の発信など社会的な対策が必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</p>	7
		思	<p>生活習慣病などの予防と回復について、健康に関わる原則や概念をもとに整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして自他や社会の課題を発見、分析し、効果的な解決方法を話し合ったり、発表したりしている。</p>		
		主	<p>生活習慣病とその予防について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。</p>		
		喫煙と健康	知	<p>喫煙や飲酒は、生活習慣病などの要因となり心身の健康を損ねること、喫煙や飲酒による健康課題を防止するには、正しい知識の普及、健全な価値観の育成などの個人への働きかけ、及び法的な整備も含めた社会環境への適切な対策が必要で</p>	5
		飲酒と健康			

		<p>薬物乱用と健康</p>	<p>あることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</p> <p>コカイン、MDMAなどの麻薬、覚醒剤、大麻、など、薬物の乱用は、心身の健康、社会の安全などに対して深刻な影響を及ぼすことから、決まて行ってはならないことについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</p> <p>薬物乱用を防止するには、正しい知識の普及、健全な価値観や規範意識の育成などの個人への働きかけ、及び法的な規制や行政的な対応など社会環境への対策が必要であることについて、理解したことを発表したり話し合ったりしている。</p>	<p>思</p> <p>喫煙、飲酒、薬物乱用の防止について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見し、我が国のこれまでの取組を個人への働きかけと社会環境への対策の面から分析したり、諸外国と比較したりして、防止策を評価している。課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて発表したりしている。</p>	<p>主</p> <p>喫煙・飲酒、薬物乱用について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。</p>	
		<p>精神疾患の特徴</p>	<p>知</p> <p>精神疾患は、精神機能の基盤となる心理的、生物的、または社会的な機能の障害などが原因となり、認知、情動、行動などの不調により、精神活動が不全になった状態であることについて理解したことを言ったり書いたりしている。うつ病、統合失調症、不安症、摂食障害などは、誰もが罹患しうること、若年で発症する疾患が多いこと、適切な対処により回復し生活の質の向上が可能であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</p> <p>精神疾患の予防と回復には、身体の健康と同じく、適切な運動、食事、休養及び睡眠など、調和のとれた生活を実践すること、早期に心身の不調に気付くこと、心身に起こった反応については体ほぐしの運動などのリラクゼーションの方法でストレスを緩和することなどが重要であることについて理解したことを言ったり書いたりしている。</p>	<p>思</p> <p>精神疾患の予防と回復について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見し習得した知識を基に、心身の健康を保ち、不調に早く気付くために必要な個人の取組や社会的な対策を整理している。課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。</p>	<p>主</p> <p>精神疾患の予防とその回復について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。</p>	<p>3</p>
<p>3 学期</p>	<p>安全な社会生活</p>	<p>事故の現状と発生要因</p> <p>交通事故防止の取り組み</p> <p>安全な社会の形成</p>	<p>知</p>	<p>事故は、地域、職場、家庭、学校など様々な場面において発生していること、事故の発生には、周りの状況の把握及び判断、行動や心理などの人的要因、気象条件、施設・設備、車両、法令、制度、情報体制などの環境要因などが関連していることについて理解している。交通事故を防止するには、自他の生命を尊重するとともに、自分自身の心身の状態や周りの環境、車両の特性などを把握すること、及び個人の適切な行動、交通環境の整備が必要であることについて理解している。事故を防止したり事故の発生に伴う傷害等を軽減したりすることを旨とする安全な社会の形成には、交通安全、防災、防犯などを取り上げて、法的な整備などの環境の整備、環境や状況に応じた適切な行動などの個人の取組、及び地域の連携などが必要であることについて理解している。</p>	<p>4</p>	

			<p>思 安全な社会づくりについて、安全に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見し、様々な事故や災害の事例から、安全に関する情報を整理し、環境の整備に応用している。交通安全について、習得した知識を基に、事故につながる危険を予測し回避するための自他や社会の取組を評価している。安全な社会づくりについて、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。</p> <p>主 安全な社会づくりについて、課題解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。</p>	
1	応急手当の意義と救急医療体制	<p>心肺蘇生法</p> <p>日常的な応急手当</p>	<p>知 適切な応急手当は、傷害や疾病の悪化を防いだり、傷病者の苦痛を緩和したりすることについて、理解する。自他の生命や身体を守り、不慮の事故災害に対応できる社会をつくるには、一人一人が適切な連絡・通報や運搬も含む応急手当の手順や方法を身に付けるとともに、自ら進んで行う態度が必要であること、社会の救急体制の整備を進めること、救急体制を適切に利用することが必要であることについて理解する。心肺停止状態においては、急速に回復の可能性が失われつつあり、速やかな気道確保、人工呼吸、胸骨圧迫、AED(自動体外式除細動器)の使用などが必要であること、方法や手順について実習を通して理解し、AEDなどを用いて心肺蘇生法ができる。日常生活で起こる傷害や、熱中症などの疾病の際には、それに応じた体位の確保・止血・固定などの基本的な応急手当の方法や手順があることを、実習を通して理解し、応急手当ができるようにする。</p> <p>思 応急手当について、安全に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見し、習得した知識や技能を事故や災害で生じる傷害や疾病に関連付けて、悪化防止のための適切な方法に応用している。応急手当について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。</p> <p>主 応急手当について課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。</p>	3
2				
3				

6 学習者へのメッセージなど

保健の授業を通して個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めて下さい。生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育む時間です。そして課題を新たに発見し課題解決のために探求心を持って学習を進めてください。

年間授業計画

科目(講座名)	音楽 I	単位	必修・選択	学年	1年
教科書 副教材	高校生の音楽1	教科担当			

1 教科の目標

芸術の幅広い活動を通して、各科目における見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の芸術や芸術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1)芸術に関する各科目の特質について理解するとともに、意図に基づいて表現するための技能を身に付けるようにする。
- (2)創造的な表現を工夫したり、芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする。
- (3)生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。

2 科目の目標

音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1)曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関り及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。
- (2)自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聞くことができるようにする。
- (3)主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものしていく態度を養う。

3 授業内容と学習方法

●表現【歌唱・器楽(ボディー・パーカッションを含む)・創作】

歌唱・器楽について、発声法・呼吸法・楽器の奏法など、技術的な事柄も含めて、曲へ取り組む中で学んでいく。また、パート別練習やグループ練習を通じて自己の役割と責任を果たし、仲間と協力して音楽を作り上げる体験をする。創作は、楽典【音楽理論全般(主に Music Note にて自主学习)】や器楽の学習と合わせて取り組む。

●鑑賞

ジャンルや国を問わず、表現に関連させて楽曲の鑑賞に授業や自主学习で取り組む。

4 評価方法並びに学習到達目標と評価の観点

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
学習到達目標並びに評価の観点	曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性などについて理解を深めている。 創意工夫などを生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作などで表している。	・音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて表現意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりしている。	・音や音楽、音楽文化と豊かに関わり主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。
評価方法	筆記テスト・レポート 発表＝実技テスト ワークシート・練習ノート Music Note	グループでの話し合い 筆記テスト・レポート 発表＝実技テスト ワークシート・練習ノート Music Note	グループでの話し合い 筆記テスト・レポート 発表＝実技テスト ワークシート・練習ノート Music Note

5 授業計画

期	月	学習内容	学習活動		評価規準	時数
1 学期	4	○校歌/独唱	○正しい発声を身につけて、豊かな響きで歌う ○日本語やイタリア語の発音の特徴を捉えて、曲の雰囲気を味わいながら歌う	知 思 主	・曲想と歌詞の関わりについて理解している。 ・創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な曲にふさわしい発声、言葉の発音、体の使い方などの技能を身につけ、歌唱で表している。 ・音色、旋律を知覚し、それらの働きについて感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように歌うかについて表現意図を持っている。 ・正しい発声を身につけて表現を創意工夫することに関心を持ち、主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。	6
	5	○楽典	○音名と譜表 ○音符と休符 ○拍子と記譜 ○音程(幹音) Music Noteを用いて、以上の項目の演習	知 思 主	・音楽を形づくっている要素のうち、リズムや拍子などのほか、各国の音名や記譜の仕方について身に付け、音程などの仕組みについて理解している。 ・音楽を形作っている要素の中でもリズムや拍子、音名、音程、記譜法について深く考え、知覚したことを自ら統合して読譜や記譜の判断ができる。 ・さまざまな音楽の要素に関心を持ち、主体的・協働的に楽典の活動に取り組もうとしている。	8
	6	○リズム打ち/ボディーパーカッション	○様々なリズムとパルスの演習 ○ボディーパーカッションのグループ演奏	知 思 主	・リズムとパルス、曲想と音色やリズムの関わりについて理解している。 ・創意工夫を生かした表現をするために必要な、他者との調和を意識して演奏する技能を身につけ、演奏で表している。 ・音色、リズム、強弱、形式、構成を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように演奏するかについて表現意図を持っている。 ・音色の工夫やリズムパターンの変化と曲想との関わりに関心を持ち、主体的・協働的にボディーパーカッションの学習活動に取り組もうとしている。	10
	7	○鑑賞	○日本と世界の民族音楽や伝統芸能の鑑賞	知 思 主	・それぞれの国の音楽の特徴・種類、及び文化的・歴史的背景や表現形態による歌唱・器楽の表現の特徴について理解している。 ・音色、リズム、旋律、強弱、構成などを知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、それぞれの音楽の種類と特徴について考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴いている。 ・日本と世界の民族音楽や伝統芸能に関心を持ち、主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	2
	9	○鑑賞	○舞台芸術の鑑賞－作品の背景や音楽の特徴、他芸術との関わりを理解する	知 思 主	・音楽の特徴と文化的・歴史的背景との関わり、及び様々な表現形態による歌唱表現の特徴について理解している。 ・音色、リズム、テクスチャを知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴いている。 ・作品に描かれている社会的背景や登場人物の心情に関心を持ち、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとしている。	4
	10	○楽典	○音程(派生音) ○音階 ○和音 ○コードネーム Music Noteを用いて、以上の項目の演習	知 思 主	・音楽を形づくっている要素のうち、音程や音階、和音、コードネームなどの仕組みについて理解している。 ・音楽を形作っている要素の中でも音程、音階、和音、コードネームについて深く考え、知覚したことを自ら統合して読譜や記譜の判断ができる。 ・さまざまな音楽の要素に関心を持ち、主体的・協働的に楽典の活動に取り組もうとしている。	10
	11	○混声四部合唱	○無伴奏混声四部合唱曲「夢みたものは」の歌唱、他	知 思 主	・日本語の特性と曲想に応じた発声との関わりについて理解している。 ・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な呼吸法、曲にふさわしい発声、言葉の発音、体の使い方などの技能を身に付け、歌唱で表している。 ・音色、テクスチャ、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気などを感受しながら、ア・カペラによる歌唱の特徴を生かした音楽表現を工夫し、どのように歌うか表現意図をもっている。 ・豊かな響きのある歌声の基礎となる技能を身に付けることや協力し合いながらアンサンブル活動をするに関心を持ち、主体的・協働的にア・カペラの合唱に取り組もうとしている。	10
12	○創作・器楽	○コードネームとキーボードを用いた変奏や編曲	知 思	・音素材、音を連ねたり重ねたりしたときの響き、音階や音型などの特徴及び構成上の特徴について、表したいイメージと関わらせて理解している。 ・創意工夫を生かした創作表現をするために必要な、音楽を形作っている要素の働きを変化させ、変奏や編曲の技術を身につけ、創作で表している。 ・音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、構成を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように音楽を作るかについて表現意図を持っている。	4	
2 学期	9	○鑑賞	○舞台芸術の鑑賞－作品の背景や音楽の特徴、他芸術との関わりを理解する	知 思 主	・音楽の特徴と文化的・歴史的背景との関わり、及び様々な表現形態による歌唱表現の特徴について理解している。 ・音色、リズム、テクスチャを知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴いている。 ・作品に描かれている社会的背景や登場人物の心情に関心を持ち、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとしている。	4
	10	○楽典	○音程(派生音) ○音階 ○和音 ○コードネーム Music Noteを用いて、以上の項目の演習	知 思 主	・音楽を形づくっている要素のうち、音程や音階、和音、コードネームなどの仕組みについて理解している。 ・音楽を形作っている要素の中でも音程、音階、和音、コードネームについて深く考え、知覚したことを自ら統合して読譜や記譜の判断ができる。 ・さまざまな音楽の要素に関心を持ち、主体的・協働的に楽典の活動に取り組もうとしている。	10
	11	○混声四部合唱	○無伴奏混声四部合唱曲「夢みたものは」の歌唱、他	知 思 主	・日本語の特性と曲想に応じた発声との関わりについて理解している。 ・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な呼吸法、曲にふさわしい発声、言葉の発音、体の使い方などの技能を身に付け、歌唱で表している。 ・音色、テクスチャ、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気などを感受しながら、ア・カペラによる歌唱の特徴を生かした音楽表現を工夫し、どのように歌うか表現意図をもっている。 ・豊かな響きのある歌声の基礎となる技能を身に付けることや協力し合いながらアンサンブル活動をするに関心を持ち、主体的・協働的にア・カペラの合唱に取り組もうとしている。	10
12	○創作・器楽	○コードネームとキーボードを用いた変奏や編曲	知 思	・音素材、音を連ねたり重ねたりしたときの響き、音階や音型などの特徴及び構成上の特徴について、表したいイメージと関わらせて理解している。 ・創意工夫を生かした創作表現をするために必要な、音楽を形作っている要素の働きを変化させ、変奏や編曲の技術を身につけ、創作で表している。 ・音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、構成を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように音楽を作るかについて表現意図を持っている。	4	

				主	・伴奏を作ったり変奏をしたり、器楽伴奏やアンサンブルに編曲したりすることに関心を持ち、主体的・協働的に創作の学習活動に取り組もうとしている。	
3 学期	1	クラスコンサートの 企画、運営、実 施、鑑賞	○アクティブ・ラーニング 形式でアンサンブル演奏 のグループ活動	知	・楽曲にふさわしい演奏方法や技能、また様々な表現形態を身につけている。 ・表現形態の特徴を生かして歌ったり演奏したりする技能を身につけている。 ・他者との調和を生かして歌ったり演奏したりする技能を身につけている。	6
				思	・歌唱や器楽の表現に関わる知識や技能を生かしながら、自己のイメージを持って表現を創意工夫している。	
				主	・音楽活動やアンサンブル活動に興味を持ち、自ら深めようとしている。 ・他者との調和を意識し、協働して、自己の資質や能力を伸ばそうとしている。	
	2		○コンサートの開催に必 要な仕事の分担と運営 ○コンサートの開催 ○コンサートの鑑賞 ○コンサートの開催に係 わる活動全般の総括	知	・楽曲にふさわしい演奏方法や技能、また様々な表現形態を身につけている。 ・表現形態の特徴を生かして歌ったり演奏したりする技能を身につけている。 ・他者との調和を生かして歌ったり演奏したりする技能を身につけている。	6
				思	・歌唱や器楽の表現に関わる知識や技能を生かしながら、自己のイメージを持って表現を創意工夫している。 ・鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴くことが出来る。	
				主	・音楽活動やアンサンブル活動に興味を持ち、自ら深めようとしている。 ・他者との調和を意識し、協働して、自己の資質や能力を伸ばそうとしている。 ・音楽やコンサートを形作っている要素や要素同士の関連、また音楽に関する用語や記号について、理解したり興味を持っている。	
	3		○コンサートの録画鑑賞 ○1年間の総括	知	・曲想や表現上の校歌と音楽構造の関わり、音楽の特徴と文化的歴史的背景や他の芸術との関わりについて理解している。	2
				思	・鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴くことが出来る。	
				主	・音楽やコンサートを形作っている要素や要素同士の関連、また音楽に関する用語や記号について、理解したり興味を持ったりと、自ら深めようとしている。	

6 学習者へのメッセージなど

週1回の限られた時間です。有意義な時間にしましょう。

失敗を恐れずポジティブに、やるときには何事にも‘本気’で取り組むこと。

するといつしか力が付き、表現の幅が広がっていくものです。

また、集団で作りに上げていく授業内容が主となります。

周りとの協調精神を大切に、取り組んで下さい。

※これらの授業計画(内容)は、新型コロナの状況及びコロナ感染防止対策のガイドラインによって適宜変更されます。ご承知おきください。

年間授業計画

科目(講座名)	美術 I	単位	必修・選択	学年	年
教科書 副教材	高校生の美術1(日本文教出版)	教科担当			

1 教科の目標

<p>芸術の幅広い活動を通して、各科目における見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の芸術や芸術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 芸術に関する各科目の特質について理解するとともに、意図に基づいて表現するための技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 創造的な表現を工夫したり、芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする。</p> <p>(3) 生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。</p>

2 科目の目標

<p>美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ねて生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。</p> <p>(2) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみながら心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。</p>
--

3 授業内容と学習方法

<p>【絵画】 水彩絵具・水彩色鉛筆を使い、着彩表現を研究する テーマ設定のある着彩画を1学期と3学期、計2作品制作する</p> <p>【デザイン】 サイコロの目をデザインし、描画制作する</p> <p>【工芸】 シルバークレイ粘土を使用し、オリジナルの銀製品を制作する</p> <p>・教科書の技法解説資料を元に演習を行う。 ・教科書やプリントの参考作品画像を使用し、発想の引き出し方を解説、指導する。 ・プレゼンテーションや投票といった、皆で学び合う機会を設定する。</p>

4 評価方法並びに学習到達目標と評価の観点

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
学習到達目標並びに評価の観点	対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。	主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみながら心豊かな生活や社会を創造していく姿勢を身につける。

評価方法	作品の内容と完成度 アイデアスケッチ プレゼンテーション発表 自己評価レポート	作品の内容と完成度 制作の進め方 アイデアスケッチ 自己評価レポート	課題の提出状況 制作に取り組む姿勢 アイデアスケッチ 用具の準備 鑑賞・傾聴の姿勢
------	--	---	---

5 授業計画

期	月	学習内容	学習活動		評価規準	時数	
1 学期	4	絵画表現	デッサンの基礎	知	意図に応じて材料や用具の特性を生かすとともに、色や質感などの表現を工夫し、主題を追求して創造的にあらわしている。	6	
				思	身近なものを観察して捉えた特徴、形や色を描画する際の構図、材料や用具の特性などについて考え、創造的な表現の構想を練っている。		
				主	主体的に身近なものを見つめ、感じ取った特徴やものに対する自分の思いなどをもとにした表現の創造活動に取り組もうとしている。		
	5	水彩技法演習	知	意図に応じて水彩画材や筆の特性を生かすとともに、描画方法を工夫して創造表現の幅を広げている。	6		
			思	水彩画材料による表現のさまざまな効果などから主題を生成し、画材の特性を生かした表現方法などについて考え、創造的な表現の構想を練っている。			
			主	主体的に水彩画材料ならではの効果などを追求して、表現の創造活動に積極的に取り組もうとしている。			
	6	着彩課題①	知	意図に応じて材料や用具の特性を生かすとともに、色や質感などの表現を工夫し、主題を追求して創造的にあらわしている。	16		
			思	身近なものを見つめ、感じ取った特徴やものに対する自分の思いなどから主題を生成し、形や色、構図、材料や用具の特性などについて考え、創造的な表現の構想を練っている。			
			主	主体的に身近な事象を見つめ、感じ取った特徴や「もの、こと」に対する自分の思いなどをもとにした表現の創造活動に取り組もうとしている。			
2 学期	9	デザイン・工芸	サイコロのデザイン制作	知	形や色、材料などが感情にもたらす効果や、配色や構成などの造形的な特徴などをもとに、効果的な伝達のデザインを全体のイメージや作風などで捉えることを理解している。	10	
				思	伝える情報の内容や相手などから主題を生成し、単純化や省略、強調などの効果や、わかりやすさと美しさの調和などについて考え、創造的な表現の構想を練っている。		
				主	主体的に誰に何を伝えるかを考え、わかりやすく効果的なデザインを工夫する表現の創造活動に取り組もうとしている。		
	10	彫金「銀製品制作」	知	形や色、材料の質感などが感情にもたらす効果や造形的な特徴などをもとに、銀製オーナメントやアクセサリーのデザインを全体のイメージや作風などで捉えることを理解している。			

	11			思	さまざまな製品・作品を比較して、使用する目的や使う人の立場に立った機能との調和の取れた洗練された美しさなどを感じ取り形や色、質感の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めている。	14	
	12			主	主体的に色々な銀製品・作品の比較鑑賞に取り組み、目的や機能との調和の取れた美しさなどを感じ取り、形や色、質感の工夫などについて考える創造活動に取り組みようとしている。		
3 学期	1	絵画表現	着彩課題②	知	形や色、材料などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などをもとに、自己をあらわした作品を、全体のイメージや作風などで捉えることを理解している。	12	
	思			自己を見つめ、感じ取ったことや考えたことから主題を生成し、単純化や省略、強調、材料の質感や量感を生かした表現などについて考え、創造的な表現の構想を練っている。			
	主			自己を表現した作品の造形的な良さや美しさを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を主体的に深めている。			
	2						
	3						

6 学習者へのメッセージなど

幅広い画材・素材の体験を通して美術の広さ・深さを知り、
描く喜び・作る喜び・見る喜びを通して、表現することの素晴らしさに気付いて欲しいと思います。
自分自身の気持や欲求を表現することにより、新たな自己を発見して下さい。

年間授業計画

科目(講座名)	書道 I	2単位	必修選択	学年	1年
教科書 副教材	書 I(教育図書 プライマリーブック)	教科担当			

1 教科の目標

芸術に親しむ心を養い感性を豊かにし、書の良さや靱く示唆を感じ取り、情操を豊かにし創造的な表現や技術を身につけ、その喜びを味わう。

2 科目の目標

漢字文化圏の伝統芸術である書の美を学び、文化史の一端と捉え、書写力の向上と文字に関する教養を深める。

3 授業内容と学習方法

- 1 学期:楷書体 2学期:行書体 3学期:仮名 成立の発展と過程を古典の名品で探る。
 - 文字の原初の字形・字義、筆順の由来、活字体と筆写体の相違など文字に関すること。
 - 毛筆をはじめとする筆記用具の特性を知り、その使い方に習熟する。
 - 葉書・封筒の宛名、金封等の書式及び表書など、用語の書法的要領を知る。
- 《実技》課題の解説によって本時のポイントを理解させ、実習する。助言・添削等の指導を行い習熟させる。習熟度の高まりに従い、古典を直に臨書し、より高度な段階を目指す。
- 《理論》各書体のはじめに成立の要因・発展過程を教科書・プリント等で解説する。文字に関する解説は本時の内容に即して行う。展開に応じて、レポート提出を行うこともある。

4 評価方法並びに学習到達目標と評価の観点

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
学習到達 目標並び に評価の 観点	感性を豊かにし、書を愛好し、書の良さや美しさを感じ取り、創造的な表現を工夫し、書写能力高め、意欲的・主体的に表現や鑑賞の活動を行い、その喜びを味わおうとする。	書の効用や表現を幅広く理解し、自己を主体的に表現するために、基礎的な技能を身につけている。	書が生活の中で果たしている役割、書の文化や伝統を幅広く理解し、実用的な表現や芸術的な表現の基礎的な技能を身につけている。
評価方法	○漢字テスト ○課題プリント ○作品(添削)	○発表(作品集) ○課題プリント ○作品(添削)	○1年間通しての感想プリント ○課題プリント ○作品(添削)

5 授業計画

期	月	学習内容	学習活動	評価規準	時数
1 学期	4	楷書体の学習	○漢字テスト (総画数・筆順・部首・ 部首名) ○自分の氏名	知 思 主 ○漢字に興味を持ち、その成り立ち、筆順・部首・部首名の知識を身につけている。 ○漢字の象形を考え、意味・内容を考えている。 ○漢字の成り立ちに興味を持ち、自分の名前の成り立ちを主体的に調べ、意味を理解している。	4
	5		○楷書体基本用筆 「三川」「人口」「元水」 「日月」	知 思 主 ○表現技法の基礎・基本を身につけ、書写能力の向上に努めている。 ○古典の美と、その技法に関心を持ち、表現技法を高めようとしている。 ○自らの感性や自発的な意図に基づいて、字形・全体の構成の工夫に取り組んでいる。 ○字形や線質と筆者の感興と意図との関わりに関心を持ち、意欲的に古典の美とその技法を学んでいる。 ○漢字の書の意欲的な表現活動を通して、意図的・主体的に表現の構想から完成に至るまでの充実感や喜びを味わっている。	6
	6	行書体の学習	○臨書 孔子廟堂碑「大道」 九成宮醴泉銘「清泉」 雁塔聖教序「無門」	知 思 主 ○漢字の書の美に対する感性を養い、意図に基づく表現の構想を工夫している。 ○古典の美とその技法を学び、普遍性のある表現力を身につけている。 ○漢字の書の構築的な構造や変化と統一などを理解し、字形全体の構成を工夫している。 ○自己の表現のねらいを達成する為に、古典の持つ伝統的な美を感受し、表現方法を工夫している。	6
	7		○臨書 顔氏家廟碑「武道」 牛擗造像記「令和」 鄭義下碑「永和」	知 思 主 ○基本的な点画や線質の表し方と、用筆・運筆の関係を把握している。 ○漢字の書の構築的な構造、変化と統一などを理解し、字形・全体の構成を工夫している。 ○自己の表現のねらいを達成するために古典の持つ伝統的な美を感受し、表現方法を工夫している。	6
	9		○硬筆検定2・3級理論 解答 ○行書体基本用筆 「三川」「人口」「水月」 「比能」	知 思 主 ○古典の学習により、行書に関心を持ち、意欲的にその美を味わっている。 ○行書に関心を持ち、意欲的にその美と技法を学んでいる。 ○行書の表現活動を通して、意図的・主体的に表現の構想から完成に至るまでの充実感や喜びを味わっている。	6
	10	2 学期	○行書体臨書 王羲之『蘭亭序』 「天朗」 「氣清」 「恵風」	知 思 主 ○基本的な用具・用材に関する知識や扱い方を身につけ、用具・用材と表現との関係に関心を持っている。 ○漢字の行書体に関心を持ち、意欲的・主体的に表現や鑑賞の活動を行っている。 ○漢字の行書体の字形について関心を高め、自らの構想に基いて意欲的・主体的に活動を行っている。	6
	11		○行書体臨書 王羲之『蘭亭序』 「和暢」 「宇宙」 「之大」	知 思 主 ○用具・用材の特性を活かした表現効果を理解し、表現に応じた用具・用材を選択している。 ○実用的な表現や芸術的な表現の幅を広げ、漢字の行書体の技能を身につけている。 ○文字や文字群と余白との関係を理解し、全体の構成を考えた創造的な表現をしている。	6
12	○行書体臨書 王羲之『蘭亭序』 半切臨書 ○自由課題 色紙		知 思 主 ○表現の構想から完成に至るまでの充実感や喜びの体験を通して、主体的に自己実現を果たしていく態度が身につけている。 ○目的や用途に即した形式と表し方を判断し、文字の大きさ・配列などそれぞれに適した表現を工夫している。 ○芸術的な表現や実用的な表現に応じた形式と表し方を理解し、目的や用途に即して表現する技能を身につけている。	6	

3 学期	1	仮名の学習	○仮名・いろは歌	知	○仮名の書的美に対する感性を養い、意図に基づいて字形や線質を工夫している。	4
				思	○古典の学習により、仮名の表現の基本的な用筆・運筆の技法を身につけ、表現を工夫している。	
				主	○名筆を通して、単体・連綿等全体の構成など、日本の伝統的な書的美を感受している。	
	2	○蓬莱切臨書 変体仮名十種 連綿九種 半紙料紙	知	○仮名の基本的な線質と用筆・運筆との関係を理解し、創造的な表現をしている。	4	
			思	○運筆の律動性や筆脈の把握を通して、仮名の美の特質を理解し、その技法を身につけている。		
			主	○自発的な意図に基づいて、全体構成や字形・線質・墨色などを工夫し、創造的な表現をしている。		
3	○作品集制作・返却 一年を通しての感想 及び発表	知	○書が生活の中で果たしている役割を理解し、書を社会生活の中で活かそうとしている。	4		
		思	○書に対する関心を持ち、美しいと感じたり、楽しいと思えるような書の発見に心がけている。			
		主	○書的美に対する第一印象を大切に、自分の感じ方や好みを発表することを身につけている。 ○他者の見方や鑑賞内容を聞く事により、自らの鑑賞を深めている。			

6 学習者へのメッセージなど

書は後天性の強い芸術とされ、書法の正しい理解と努力によって目覚ましく進歩するものです。また、書的美は一様ではありませんが、基礎となる項目＝文字の結構の基本・筆記具の使い方＝は同一です。そこが理解出来ると楽しくなります。活字体は書く為のものではありません。書く為には書写体を学ぶことが肝要です。授業では、書法の基本的事柄について道案内します。判らないこと、出来ないことがあれば、遠慮なく質問して下さい。この授業を介して「書」に興味を抱くことになれば幸甚に思います。

令和4年度 年間授業計画

科目 (講座名)	英語コミュニケーション I	3 単位	必修	学年	1 年
教科書 副教材	ELEMENT English Communication I (啓林館) 精読: Change the World [Approach] (いいずな書店) 速読: 英文速読ドリル 10 minutes 入門、level1 (Z 会出版) 語彙: 速読英単語 入門編 改訂第 3 版 速読英単語 必修編 改訂第 7 版 (Z 会出版) でる順パス単 準 1 級 (旺文社) 多読教材: 年間 9 冊程度の多読教材を読む。	教科担当			

1 教科の目標

- ①外国語によるコミュニケーションのための知識・技能を働かせ、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通じて、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝えあったりする資質・能力・態度を育成する。
- ②入試問題に対応できる語彙力・読解力(概要や要点を目的に応じて捉えることができる力)の基礎を作る。

2 科目の目標

- 【読むこと】社会的な話題について、必要な情報を読み取り、概要や要点を目的に応じて捉えることができるようにする。
- 【聞くこと】日常的な話題について、必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握することができるようにする。
- 【書くこと】日常的な話題について、基本的な語句や文を用いて、情報を考え、気持などを論理性に注意して文章を書いて伝えることができるようにする。
- 【話すこと (発表)】日常的な話題について、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持などを論理性に注意して話して伝えることができるようにする。
- 【話すこと (やりとり)】日常的な話題について、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持などを話して伝えあうやり取りを続けることができるようにする。

3 学習目標

- ①文章の概要や要点を素早く正確に掴む読解力を養成する。具体的に、本文を読み、概要を考え、本文の要点を照らし合わせ、自分の考えた概要が間違っていた場合、その概要を訂正することができる。
- ②大学受験で求められる基本的な語彙数 5000 語を習得する。
- ③英作文における賛否型の問題において、60~100 ワードで自分の意見を論理的な、また一貫性を持った英文を書くことができる。
- ④読解において、共通テストで必要とされている速さ、120wpm で英文を読むことができる。
- ⑤伝えたい内容を正確に伝えるための、言語材料(基本的な文法知識、語法)を理解することができる。

4 授業内容と学習方法

教科書・精読教材を中心に展開する。教科書を使用して言語活動を多く行うことによって英語でコミュニケーションを行う場面を作る。またその際、ペアワーク・グループワークを活用し、主体的・対話的な学習ができるような環境を整える。

精読教材を使用して、読解力やリーディングスキルの育成を行う。また、リスニングや音読活動を通じてコミュニケーションの基礎となる能力を身に着ける。定期テストまでに1回パフォーマンステストを行う。単語等の小テストを行い、習得状況を把握する。多読活動を継続的に行う。

5 評価方法並びに学習到達目標と評価の観点

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
学習到達目標並びに評価の観点	外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に着けているか。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができているか。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について話されたり書かれたりする文章等を聞いたり、読んだり、して必要な情報を読み取ったり、話し手や書き手の意図を把握したり、概要や要点などを捉えようとしている。日常的な話題や社会的な話題について、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、情報や考え、気持ちなどを基本的な語句や文を用いて、論理性に注意して話したり書いたりして表現したり伝え合ったりしようとしている。
評価方法	①定期テスト・小テスト	①定期テスト ②パフォーマンステスト[インタビューテスト・即興スピーチ(ライティング)を含む]	①授業内での行動観察 (思考・判断・表現の活用における学習状況) ②ワークシート

6 授業計画

期	月	学習内容	学習活動	領域					評価規準	時数
				聞	読	話	話	書		
1 学期	4	ELEMENT English Communication I Lesson 1, 2 (英語の5文型、受動態、to不定詞、現在完了形、現在完了進行形、分詞の限定用法)	単語テスト 言語活動	○	○	○	○		知 英語特有のリズム・イントネーションを聴き、発話を理解している。 必要な情報を聞き取るため(読み取るため、話して伝えるため)の言語材料を理解している。 ある話題についての内容を、話して伝えあう(読み取る、聞き取る)技能を身につけている。	9
	5			思 自分について、簡単な表現を使って話すことができる。短い提議表現を使えば簡単な質問や応答ができる。 本文に関連する写真やキーワードなどの手助けがあれば、短い簡単な表現を使って、話のあらすじを伝えることができる。 平易な英語で書かれた短い物語を読んだり聞いたりし、必要であれば読み直したり、聞きなおしたりしながら、概要を理解することができる。						

									主 聞き手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。	
	6	ELEMENT English Communication I Lesson 3 Further Reading1 (関係代名詞、使役動詞、過去完了形、知覚動詞) Change the World (Approach) 1. 2	単語テスト パフォーマンステスト 言語活動	○	○	○	○	○	知 つながりやすい音・変化しやすい音を聞き分け、自然なスピードの発話を理解している。必要な情報を聞き取るため（読み取るため、書いて伝えるため、話して伝えるため）の言語材料を理解している。 ある話題についての内容を、話して伝えあう（書いて伝える、読み取る、聞き取る）技能を身につけている。 思 本文に関連する写真やキーワードなどの手助けがあれば、短い簡単な表現を使って、話のあらすじを伝えることができる。 ある話題について書かれた文などを読んで（聞いて）、概要や要点を捉えることができる。 語句身近な事柄について、簡単な語句や文を用いて書くことができる。 主 聞き手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。	6
	7		単語テスト 言語活動	○	○	○	○	○	知 発音されなくなる音や弱く発音される音を含んだ発話を理解することができる。 必要な情報を聞き取るため（読み取るため、書いて伝えるため、話して伝えるため）の言語材料を理解している。 ある話題についての内容を、話して伝えあう（書いて伝える、読み取る、聞き取る）技能を身につけている。 思 本文に関連する写真やキーワードなどの手助けがあれば、話のあらすじを伝えることができる。 ある話題について書かれた文などを読んで（聞いて）、概要や要点を捉えることができる。 聞いたり読んだりした内容について、簡単な語句や表現を用いて、自分の意見や感想を書くことができる。 主 聞き手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。	1 2
夏季休業期間	8	Change the World (Approach) 3. 4	夏季講習 夏季長期休暇課題 多読						知 思 主	
2学期	9	ELEMENT English Communication I Lesson 4, 5 (関係代名詞、使役動詞、過去完了形、知覚動詞) Change the World Approach 5. 6	単語テスト 言語活動	○	○	○	○	○	知 はっきりとした、簡単な挨拶や指示を理解している。 必要な情報を聞き取るため（読み取るため、書いて伝えるため、話して伝えるため）の言語材料を理解している。 ある話題についての内容を、話して伝えあう（書いて伝える、読み取る、聞き取る）技能を身につけている。 思 本文に関連する写真やキーワードなどの手助けがあれば、話のあらすじを伝えることができる。 目的などに応じて、ある話題について書かれた文などを読んで（聞いて）、概要や要点を捉えることができる。 主 聞き手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。	9

	10	ELEMENT English Communication I Lesson 6, Further Reading 2 Change the World Approach 6.7	単語テスト 言語活動	○	○	○	○	○	<p>知 必要な情報を聞き取るため（読み取るため、書いて伝えるため、話して伝えるため）の言語材料を理解している。 ある話題についての内容を、話して伝えあう（書いて伝える、読み取る、聞き取る）技能を身につけている。</p> <p>思 目的などに応じて、ある話題について書かれた文などを読んで（聞いて）、概要や要点を捉えることができる。 比較的身近で社会的な事柄について、何らかの手助けがあれば、グラフや情報をもとに、自分の考えや気持ちなどを伝えることができる。 身近な事柄について、簡単な語句や表現を用いて、短い説明文を書くことができる。</p> <p>主 聞き手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。</p>	9
	11		単語テスト 多読 単語テスト パフォーマンステスト 言語活動	○	○	○	○	○	<p>知 文章を読み取るため（書いて伝えるため、話して伝えるため）の言語材料を理解している。ある話題についての内容を、話して伝えあう（書いて伝える、読み取る、聞き取る）技能を身につけている。</p> <p>思 比較的身近で社会的な事柄について、何らかの手助けがあれば、グラフや情報をもとに、自分の考えや気持ちなどを伝えることができる。 目的などに応じて、ある話題について書かれた文などを読んで（聞いて）、概要や要点を捉えることができる。 相手の話に対し、簡単な定型表現を使って、興味があることについて伝え合うことができる。</p> <p>主 聞き手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。</p>	12
3 学期	1	ELEMENT English Communication I Lesson 7,8 Change the World Approach 8.9	単語テスト 多読 単語テスト パフォーマンステスト 言語活動	○	○	○	○	○	<p>知 短いはっきりとした簡単なメッセージやアナウンスを聞いて必要な情報を聞き取ることができる。 文章を読み取るため（書いて伝えるため、話して伝えるため）の言語材料を理解している。ある話題についての内容を、話して伝えあう（書いて伝える、読み取る、聞き取る）技能を身につけている。</p> <p>思 本文に関連する写真やキーワードなどの手助けがあれば、簡単な一連の語句や文を使って、話の要点を伝えることができる。 目的などに応じて、ある話題について書かれた文などを読んで（聞いて）、概要や要点を捉えることができる。 比較的身近で社会的な事柄について、必要に応じて手助けがあれば、簡単な英語を使って意見交換をすることができる。 身近な事柄について、簡単な語句や表現を用いて、短い説明文を書くことができる。</p> <p>主 聞き手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。</p>	6
	2		単語テスト 多読 単語テスト 言語活動	○	○	○	○	○	<p>知 文章を読み取るため（書いて伝えるため、話して伝えるため）の言語材料を理解している。ある話題についての内容を、話して伝えあう（書いて伝える、読み取る、聞き取る）技能を身につけている。</p> <p>思 本文に関連する写真やキーワードなどの手助けがあれば、簡単な一連の語句や文を使って、話の要点を伝えることができる。</p>	9

3	単語テスト 単語テスト パフォーマンステスト 言語活動	○	○	○	○	○	目的などに応じて、ある話題について書かれた文などを読んで（聞いて）、概要や要点を捉えることができる。	9
							主 聞き手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。	
							知 短いはっきりとした簡単なメッセージやアナウンスを聞いて必要な情報を聞き取ることができる。 文章を読み取るため（書いて伝えるため、話して伝えるため）の言語材料を理解している。ある話題についての内容を、話して伝えあう（書いて伝える、読み取る、聞き取る）技能を身につけている。	
							思 本文に関連する写真やキーワードなどの手助けがあれば、簡単な一連の語句や文を使って、話の要点を伝えることができる。 比較的身近で社会的な事柄について、必要に応じて手助けがあれば、簡単な英語を使って意見交換をすることができる。 目的などに応じて、ある話題について書かれた文などを読んで（聞いて）、概要や要点を捉えることができる。 比較的身近で社会的な事柄について、簡単な語句や表現を用いて、短い説明文を書くことができる。	
							主 聞き手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。	

7 学習者へのメッセージなど

英語コミュニケーション I では、コミュニケーションの基本である「聞く」「読む」「話す（やり取り）」「話す（発表）」「書く」の 5 領域の能力を伸ばします。「話す」は「話すこと（やりとり）」と「話すこと（発表）」の 2 項目に分けて指導と評価を行います。

英語の力を伸ばすために、インプットとアウトプットを繰り返し行うことで、英語を素早く、自然に表現できるようになることを目指します。そのために、英語で何が言えないか（書けないか）自分で気づくことが重要です。英語コミュニケーション I の授業では、英語を使う機会を増やすことでその機会を増やすことを目指します。

学校で扱う教材以外にも、英語に触れられる機会が日常生活の中にたくさんあります。テレビ・ラジオの英語講座、英字新聞・雑誌・映画・ドラマなど、自分が楽しみながら英語を学べる素材を探してみるのも良いでしょう。

年間授業計画

科目(講座名)	情報 I	1単位	必修	学年	1年
教科書 副教材	数研出版 高等学校 情報 I 数研出版 高等学校 情報 I サポートノート 実況出版 情報モラル&セキュリティ 30 テーマ 数件出版 これだけ！著作権と情報倫理	教科担当			

1 教科の目標

情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

2 科目の目標

効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解を深め技能を習得するとともに、情報社会と人との関わりについて理解を深めるようにする。様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を養う

3 授業内容と学習方法

コンピュータの仕組みとその扱いを学習する。
 情報社会に参画する能力を身につけ法規を学び違法行為・犯罪行為・トラブルから身を守る。
 データの活用、情報機器の操作・活用スキルの向上。各単元の「ねらい」を理解し活用できるようにする。
 授業内のプリントや課題の完成。コンピュータの操作方法の学習と習得。実習課題の提出する。

4 評価方法並びに学習到達目標と評価の観点

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
学習到達 目標並び に評価の 観点	<ul style="list-style-type: none"> 情報や情報メディアの特性をふまえ、情報と情報技術を活用して問題を発見・解決する方法を身につけている。 情報に関する法規や制度、情報セキュリティの重要性、情報社会における個人の責任および情報モラルについて理解している。 アルゴリズムを表現する手段、プログラミングによってコンピュータや情報通信ネットワークを活用する方法について理解し、技能を身につけている。 	<ul style="list-style-type: none"> 情報に関する法規や制度およびマナーの意義、情報社会において個人のはたす役割や責任、情報モラルなどについて、それらの背景を科学的にとらえ、考察している。 情報に関する法規や制度およびマナーの意義、情報社会において個人のはたす役割や責任、情報モラルなどについて、それらの背景を科学的にとらえ、考察している。 目的に応じたアルゴリズムを考え適切な方法で表現し、プログラミングによりコンピュータや情報通信ネットワークを活用するとともに、その過程を評価し改善している。 	<ul style="list-style-type: none"> 情報社会における問題の発見・解決に、情報と情報技術を適切かつ効果的に活用しようとしている。 情報モラルに配慮して情報社会に主体的に参画しようとしている。 問題の発見・解決にコンピュータを積極的に活用しようとしている。 問題解決の結果を振りかえり改善しようとしている。
評価方法	レポートの作成 定期テスト 演習課題	演習課題 定期テスト プレゼン資料作成	レポートの作成 演習課題

5 授業計画

期	月	学習内容	学習活動		評価規準	時数	
1 学期	4	ガイダンス	IDやパスワード、情報機器の使い方 実習	知	ID およびパスワードの役割や重要性について理解している。 情報機器の特徴について理解している	2	
				思	パスワードを自ら作成しその強度について適切に判断できる。 特徴に合わせた情報機器を選択できる		
				主	パスワードの重要性や特徴、ログイン方法について理解しようとしている。		
	5	コミュニケーション と情報デザイン	アナログとデジタル 実習	知	・アナログ情報とデジタル情報のちがいについて理解している。 ・デジタル情報の特徴について理解している。 ・コンピュータでデジタル情報を適切に扱うための技能を身につけている。	2	
				思	・アナログ情報とデジタル情報のちがいについて考え、適切に判断している。 ・デジタル情報の特徴や利点について考え、その結果を適切に表現している。		
				主	・アナログ情報とデジタル情報のちがいや特徴について理解しようとしている。		
	6	デジタル情報の表現 文字のデジタル化 実習	デジタル情報の表現 文字のデジタル化 実習	知	・ビット、バイトの概念や、デジタル情報の量の単位について理解している。 ・2進法・10進法・16進法の変換のしかたについて理解し、実際に変換を行うことができる。 ・文字コードのしくみについて理解している。 ・文字を文字コードを使って表すことができる。	2	
				思	・2進法・10進法・16進法の数の変換の方法について考え、その結果を適切に表現している。 ・限られたビット数で数値を表現する方法について ・文字を文字コードで表現する方法について考え、その結果を適切に表現している。		
				主	・デジタル情報の表し方について理解し、活用しようとしている ・デジタル情報の表し方について理解し、活用しようとしている。		
	7	音のデジタル化 実習	音のデジタル化 実習	知	・音のデジタル化のしくみについて理解している。 ・教科書の図のアナログ信号を、手作業で標本化、量子化、コード化して、デジタル情報に変換することができる。	3	
				思	・音をデジタル化する方法について考え、その結果を適切に表現している。		
				主	・デジタル情報の表し方について理解し、活用しようとしている。		
		画像のデジタル化 実習	画像のデジタル化 実習	知	・画像のデジタル化のしくみについて理解している。 ・画像を扱うソフトウェアやファイル形式についての知識を身につけている。 ・画像の解像度や階調について理解している。	3	
				思	・画像をデジタル化する方法について考え、その結果を適切に表現している。		
				主	・デジタル情報の表し方について理解し、活用しようとしている。		
2 学期	9	コンピュータとプログラミング	コンピュータの構成	知	・コンピュータの基本的な構成について理解し、基本的な操作ができる技能を身につけている。 ・コンピュータ本体のはたらきや補助記憶装置の種類や特徴などについて理解している。 ・CPU が命令を実行するしくみを理解している。	3	
				思	・コンピュータの中の CPU やメモリ、補助記憶装置の役割について考えている。 ・コンピュータの能力を適切に判断することができる。		
				主	・コンピュータのしくみを知り、活用しようとしている。		
	10	コンピュータとプログラミング	コンピュータのソフトウェア	知	・OS の役割やアプリケーションプログラムとのちがいについて理解している。 ・ファイルやフォルダを適切に扱うことができる。	3	
				思	・ソフトウェアのはたらきについて考えている。		
				主	・OS やアプリケーションなどのソフトウェアを活用しようとしている。		
			コンピュータでの数値の 内部表現	コンピュータでの数値の 内部表現	知	・コンピュータの内部における数の表現方法について理解している。	4
					思	・浮動小数点数の形式で数を表すことができる。	

3 学期	11	データの活用		主	・コンピュータの内部における数の表現方法について知ろうとしている。	4
	12		データベース1	知	・データベースの特徴や機能について理解している。	
				思	・データベースのはたらきや必要性について考察し、その結果を適切に表現している。	
				主	・データベースの機能やしぐみについて理解しようとしている。	
	1	データの活用	データベース2	知	・データベース管理システムの機能や、データの損失を防ぐしくみについて理解している。	4
				思	・データベースのはたらきや必要性について考察し、その結果を適切に表現している。	
	主			・データベースの機能やしぐみについて理解しようとしている。		
2	データの分析		知	・欠損値、異常値、外れ値などの扱いについて理解している。 ・度数分布表とヒストグラム、データの代表値、分散と標準偏差、散布図と相関係数について、定義や意味を理解している。 ・度数分布表とヒストグラム、データの代表値、分散と標準偏差、散布図と相関係数について、定義に従った式を表計算ソフトウェアに入力し、それらを計算することができる。	5	
3			思	・データを分析する前に、適切なデータの整理を行っている。 ・データの分析において、目的に応じた分析の方法を考え、その結果を適切に表現している。 ・データの分析によって得られた結果から、どのようなことがわかるか考えている。		
			主	・データを整理・分析し活用しようとしている。		

6 学習者へのメッセージなど

情報を学習することは今みなさんがいるこの現在のしくみを学ぶことに近いです。身の回りの出来事や事象に興味をもって取り組んでくれることにより一層理解が深まると思います。覚えることも大事ですが調べることも大切です。分かり易くするために簡略化して説明することもあります。もっと詳しく知りたかったり、わからないことがあったらそのままにせずどんどん調べましょう。そのためにインターネットや情報機器を大いに活用してください。ただし、調べた情報が見方や立場、状況によっては必ずしも正しいとは言えないかもしれません。自分ひとりで考えず周りの人と一緒になって考えてください。最終的に、情報やその手段を理解し使いこなすことができれば、よりよい生活が送れるようになるはずです。

令和4年度 年間授業計画

都立 戸山 高等学校

科目（講座名）	世界史B	3単位	必修	対象学年	2学年
教科書 副教材	世界史B（東京書籍） 世界史用語集（山川出版社） ニューステージ世界史詳覧（浜島書店）	教科担当			

学習の目標

複雑化した現代を知るためには過去を知ることが必要である。その現代は、その多くを近世・近代に源流を持っている。今日の世界がどのように形成され、現代にどのような影響を及ぼしたかを考察しながら、3年生の選択授業「世界史A」（主に現代史を学習する）、「世界史B」（主に古代・中世を学習する）へとつながる授業を行う。

学習到達度規準

学習を終えた時点で、現代社会で起きている諸事象の歴史的背景を理解できている。

授業内容と学習方法

世界史Bは2年生の必修科目である。2年生では3単位で、ユーラシア諸帝国の概観と、ヨーロッパ、アメリカ大陸の近世・近代史を主に学習する。教科書、資史料集や地図、統計、視聴覚的教材の活用や演習を実施しながら「主体的・対話的で深い学び」につながる授業を進めていく。前半の先史・古代から中世までと近現代(19世紀末以降)は、3年生の「世界史B」と「世界史A」で学習し通史を完成させることができる。評価は年5回行われる定期考査を中心に、出席状況・学習態度・課題・レポートなども含めて総合的に行う。定期考査は全クラスを共通問題で実施し、知識の整理を目指す内容と、記述力を高める内容の問題を出題する。

学習を通じて育成すべき資質・能力

	S	A	B
知識・理解	過去の膨大な歴史事象の中から主題を設定し、時間軸から歴史的事実を理解している。また、諸地域世界の相互の関連を空間軸から理解している。	諸地域世界の歴史事象を広域的に理解し、正しい用語を踏まえた上で歴史事象について正しく理解している。	歴史に対する正しい用語を身につけ、歴史事象について正しい知識を有している。
情報活用力	複数人による共同作業を通じて、地図、資史料、統計データを正しく読み取って諸地域世界の形成と交流を考察し、意見交換や意見集約を行って、他者に分かりやすく説明することができる。	諸地域世界の歴史について、地図、資史料、統計データを読み取って相互に関連させ歴史的事象を理解している。	諸地域の歴史について、年表や地図を活用し、歴史の事象について時系列的に理解している。
探究心	授業内容をよく理解し、発展的に課題を見出し、自らの方法で論理的に分析し、解決して他者に伝えることができる。	授業の内容をよく理解し、自分の意見を醸成した上で、論理的に他者に伝えることができる。	授業の内容を理解し、自分の意見を醸成し、自ら疑問点を見出すことができる。

学習者へのメッセージなど

世界史は人類の歩んできた大きな道筋を辿りながら、現在のわたし達が生きる世界の形成過程を知る科目です。新聞やニュース等をよく見ると、世界史で学習した内容が最新の出来事に大きく関わりを持っていることを知ることがあります。常に歴史の視点を持って、世界を見つめて下さい。

授業計画

学期	月	単 元	配当時間	学 習 内 容	学習上の留意点
1 学 期	4	第2編 広域世界の 形成と交流	2 1	・ 古代史, 中世史の概観 第9章-6 ルネサンス	<ul style="list-style-type: none"> ・ 15世紀までの世界通史を概観する。 ・ ルネサンスと宗教改革の理解のため併せてユダヤ教, キリスト教を学ぶ。 ・ 大交易時代の理解のため, 併せて古アメリカを学ぶ。 ・ 繁栄する中国, 西アジア, 南アジアを概観する。
	5	第3編 一体化する 世界		第12章 大交易時代 第13章 ユーラシア諸帝国の繁栄 (中間考査) 第14章-1 主権国家群の形成と 宗教改革	
	6	第3編 一体化する 世界	2 1	第14章-1 主権国家群の形成と 宗教改革 2 オランダの繁栄と英仏の追いあげ (期末考査) 3 18世紀のヨーロッパと啓蒙専制国家	<ul style="list-style-type: none"> ・ 宗教改革, オランダ独立, 17世紀イギリス, フランスのユグノー戦争と絶対王政の追求を学び, 近世ヨーロッパに与えた影響を理解する。 ・ 三十年戦争を学び, 本格的な主権国家体制の到来について理解する。
2 学 期	9	(同上)	2 1	3 18世紀のヨーロッパと啓蒙専制国家 4 近世ヨーロッパの社会と文化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 17~18世紀にかけて西欧諸国が世界経済覇権を争う一方, 東欧諸国では啓蒙専制国家が台頭し, 相互に関係を持ちながら, 独自の歴史を展開したことを学ぶ。 ・ 「大西洋革命」の歴史的共通性を学び, 現代史的意義も併せて理解する。
	10			第15章-1 激化する経済覇権抗争 (中間考査) 2 工業化による経済成長と社会問題の発生	
3 学 期	11	(同上)	2 1	3 合衆国とラテンアメリカ諸国の独立 4 フランス革命とウィーン体制 (期末考査) 5 自由主義の台頭と新しい革命の波	<ul style="list-style-type: none"> ・ フランス革命期に生まれた自由・平等・国民主権等の理念がヨーロッパに広がり, ナポレオン後のウィーン体制が, 自由主義・ナショナリズムによって崩壊する過程を理解する。
	12				
3 学 期	1	第4編 地球世界の 形成と 課題	2 1	5 自由主義の台頭と新しい革命の波 第16章-1 イギリスの覇権とヨーロッパ諸国 2 南北アメリカの発展 3 第2次産業革命と社会生活の変化 4 植民地獲得競争と動揺する世界秩序 (年度末考査)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 19世紀後半から20世紀初頭のヨーロッパ史について, クリミア戦争, イタリア・ドイツの国家統一, 仏の対外膨張, 英の繁栄, アメリカの拡大, 帝国主義と世界秩序までを学習し, 3年次の「世界史A」の授業につなげる。 ・
2					
3					

令和4年度 年間授業計画

都立 戸山 高等学校

科目（講座名）	日本史B	3単位	必修	対象学年	2学年
教科書 副教材	<ul style="list-style-type: none"> ・ 詳説日本史(山川出版社) ・ 新詳日本史図説(浜島書店) ・ 詳録新日本史史料集成(第一学習社) ・ 詳説日本史10分間テスト(山川出版社) 	教科担当			

学習の目標

歴史学習の目的は、どの時代を対象にするにしても、現在の日本や社会をより深く理解するための基礎的教養と歴史的考察力を身につけることにあります。私たちにとって大切なことは、現代をよりよく生きる力や未来を展望する能力を高めることであり、そのために必要な知識や方法を過去の出来事や人々の足跡から学び取ることです。

この授業では、歴史を構成する一つひとつの“史実”を積み上げながら、“史像”を理解・構想していくことを学んでほしいです。その上で、これからの人生で役立つ汎用的な力を身に付けてもらいたいと考えています。特に、「情報活用力」（選択する力）と「探究心」（考える力）の育成を重視します。

取り扱う範囲

2年生の「日本史B(3単位)」は、必修科目として、近世から近代(明治時代)までを主に学習します。前半の原始・古代から中世までと近現代(大正から平成時代)は、3年生の「日本史B(4単位)」・「日本史A(2単位)」で学習しますので、3年生で「日本史B」「日本史A」を両方選択すれば、日本史Bを通史的に網羅し、大学入試に対応できるようになります。

学習到達基準（「知識・理解」と「育成したい資質・能力」）

	レベル1 (B)	レベル2 (A)	レベル3 (S)
知識・理解	個々の史実を理解し、その時代の全体像を理解することができる。	個々の史実を正確に理解し、その時代の全体像を具体的に理解することができる。	個々の史実を完全に理解し、その時代の全体像を総合的かつ具体的に理解することができる。
	定期考査を中心に、授業中の小テストなどを加えて評価。詳細な基準については、学期（または単元）ごとのルーブリックで、提示する。		
情報活用力 (選択する力)	歴史の史料を読みこなし、歴史事象との結びつきを理解できる。	歴史史料を正確に読みこなし、史料を活用して、歴史像を考えることができる。	歴史史料を完全に読みこなし、歴史像を考察するために必要な資料の取捨選択もできる。
	授業内で、図説や文書史料の活用を心掛けてほしい。学期ごとのルーブリックで、目標とする到達基準を示す。		
探究心 (考える力)	獲得した知識を活用し、歴史像を考え、諸課題について整理することができる。	知識を統合し、歴史像を構想することができ、課題の発見や整理ができる。これらを論理的に行い、表現することができる。	知識の統合の上に、歴史像を構想し、課題の発見が論理的にでき、表現することができる。その上で、新たな視点などを提案することができる。
	定期考査で、思考力を問う問題を出题予定。さらに、授業内での活動への取り組みや提出物を加えて評価する。詳細は学期ごとのルーブリックで示す。		

評価の方法

年5回の定期考査の成績とルーブリックで示す平常点によって、評価していく。

授業計画

学期	月	単元	配当時間	学習内容	学習上の留意点
1 学期	4 ・ 5	日本通史 幕藩体制の 確立	1 5	日本の通史を概観 織豊政権／幕藩体制の成立 (中間考査)	日本通史を時期区分しながら、おおまかにつかむ。 鉄砲伝来から天下統一事業の過程を理解する。江戸幕藩体制の特質を理解する。
	6 ・ 7	幕藩体制の 展開	1 8	幕政の安定／経済の発展 (期末考査)	江戸幕藩体制の特質と江戸時代初期の外交を学習。幕府政治が如何にして安定を得たのかと、その上での経済発展を理解する。
2 学期	9 ・ 10	幕藩体制の 動揺	1 6	幕政の改革／幕府の衰退 (中間考査)	幕府の改革政治の実態と対外危機の中で開国進取へと推移する幕末の政局の変遷について理解する。
	11 ・ 12	近代国家の 成立	2 0	開国と幕末の動乱／明治維新と富国強兵 (期末考査)	西欧列強を目標に近代的国家の形成に努めた経緯を国家の側だけでなく、民衆の動向についても理解する。
3 学期	1 ・ 2 ・ 3	近代国家の 成立	2 4	自由民権運動／立憲国家の成立と日清戦争／日露戦争と国際関係／近代産業の発展 (学年末考査)	一連の近代化政策と自由民権運動の経緯をよくまとめること。日清・日露戦争を経て、西欧列強と同様に帝国主義の道を進むことになる日本のアジア外交について理解する。

学習者へのメッセージなど

2年生の日本史では、安土桃山時代～明治時代を中心に学習します。他の都立高校ではあまり例をみませんが、前近代と近現代の両方を学習することで、それぞれの政治機構や社会システムの特徴を考察することができるようになり、今年度学習していない時代もそれぞれの枠組みでとらえることができるようになります。

「歴史観」をもつということは、過去に対する独自の解釈をもつことのみを言うのではなく、現在のさまざまな視点から過去をとらえ直し、そこで考えたことをこれから向かうべき未来の指針につなげていくことができる能力だと思います。授業で扱える歴史の内容はかなり制約されたもので、これだけで「歴史観」を培うには物足りません。それを補って余りあるものが読書だと思います。読書による思索は、想像力を高め、考察力を鍛えるとよく言われます。歴史に関するものに限定はしませんが、学生である今のうちにたくさん読書して、日本と世界の将来をしっかりと見据えて行動できる社会人となることをめざしましょう。決して歴史を学ぶことは、年号や人名を暗記することではありません。教科書は学びをいざなう手がかりです。自ら書に学んだり、博物館や史跡を訪れたりして、主体的な学び（教えてもらうのではなく、自ら学ぶ）姿勢を大切にして欲しい。

令和4年度 年間授業計画

都立 戸山 高等学校

科目（講座名）	物理基礎	3単位	必修	対象学年	2年
教科書 副教材	物理基礎（啓林館） セミナー物理基礎＋物理	教科担当			

学習の目標

物理的な事物・現象についての観察、実験を行い、自然に対する関心や探求心を高め、物理的に探究する能力と態度を育てるとともに基礎的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な自然観を育成する。

学習到達度規準

自己学習力の伸長を図り、大学入試センター試験の全国平均得点を25%上回る学力を身につける。

授業内容

授業では教科書の各項目に則して、身近で自分でもできる実験と、実験室でないとできない実験を織り交ぜて、論理的な理解ができるように授業を展開していく。
その過程で、物理的に探求していく能力と態度が育成されていく。このような授業展開をめざしていく。

学習方法

○論理的な道筋を辿ることを念頭に、復習を心がけるのが十分な理解への近道である。
○力学が物理の基本となっている。十分に問題練習を積むことによって理解が深まる。
○暗記して定期テストに備えるという考えから脱却し、ほんの少しの法則をきちんと理解し、これを適用して探求を進めていくように心がけてほしい。
○授業で学習した物理用語を用いて、現象を表現し理解することが大切である。例えば「パワー」という言葉で現象を表現しても、「力」や「エネルギー」である場合が多い。

学習の到達目標と評価の観点

1. 関心・意欲・態度・・・物理的な事象に関心や探求心をもち、意欲的にそれらを探究するとともに、科学的態度を身につけたか。
2. 思考・判断・・・物理的な事象を、観察、実験を通して実証的、論理的に考えたり、分析的・総合的に考察したりして、事実に基づいて科学的に判断できたか。
3. 観察・実験の技能・表現・・・物理的な事象に関する観察、実験の技能を習得するとともに、観察、実験の結果及びそこから導き出した自らの考えを的確に表現できたか。
4. 知識・理解・・・観察・実験などを通して物理的な事象についての基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身につける。

評価の方法

定期テスト、実験レポート、科学的に探求していく態度などを総合的に評価する。

授業計画

学期	月	単 元	配当時間	学 習 内 容	学習上の留意点
1 学 期	前 半	物体の運動 力のはたらきとつりあい	18	速度 加速度 落下運動 さまざまな力 力の合成・分解とつりあい (中間考査)	○ 一直線上の物体の運動の表し方 ○ 自由落下は質量によらない ○ 速度の合成と分解
	後 半	運動の法則 剛体に働く力	18	運動の3法則 運動方程式の利用 抵抗力を受ける運動 剛体にはたらく力 (期末考査)	○ 単位に注意 ○ 最大摩擦力と静止摩擦力 ○ 力の定量的に定義 ○ モーメントの概念
2 学 期	前 半	仕事と力学的エネルギー 運動量の保存 熱とエネルギー	21	仕事と仕事率 力学的エネルギー 運動量と力積 運動量の保存 反発係数 熱と温度 エネルギーの変換と保存 (中間考査)	○ 日常的な仕事は異なる概念 ○ エネルギーはスカラー ○ 運動量はベクトル ○ 物体の衝突を例に運動量保存の法則が成り立つことを理解する。
	後 半	波の性質 音波	21	波の表し方とその要素 波の重ね合わせ 波の干渉・反射・屈折・回折 音の伝わり方 物体の振動 (期末考査)	○ 振動的観点と波動的観点 ○ 進行波に対して定常波 ○ 時間的観点と空間的観点 ○ 音の3要素・共鳴とうなり ○ 基本振動と倍振動 ○ 縦波としての振動
3 学 期		音波 光波 静電気と電流	27	ドップラー効果 光の性質 レンズと鏡 光の回折と干渉 静電気 (学年末考査)	○ 光の色と波長 ○ 実像と虚像の意味 ○ 箔検電器の開閉

学習者へのメッセージなど

我々は、日常生活の中で物理的な現象を体験している。これを自分なりに理解する場合、ミスコンセプションを形成している場合が多い。「力がつり合っていると物体は静止する」などがそれで、静止または等速運動をするが正しい理解である。日常生活で体験した現象を、教室で学習した物理の法則を適用して考えを進めていくことを心がけてほしい。

令和4年度 年間授業計画

都立 戸山 高等学校

科目（講座名）	化学基礎	3 単位	必修	対象学年	2年
教科書 副教材	東京書籍 化学基礎 第一学習社 セミナー化学基礎+化学 実教出版 サイエンスビュー化学総合資料	教科担当			

学習の目標

- (1)正しい物質観を身につける。
 (2)実験を通して、自然科学の基礎的な方法を習得する
 (3)化学を通して 科学的な思考を養い、自然科学の社会的機能を認識する。

学習到達度基準

センター入試レベルの問題で8割正解できるようになる。

授業内容

物質の構成：物質の探究、原子の構造と元素の周期表、化学結合
 物質の変化：物質と化学反応式、酸と塩基、酸化還元反応

学習方法

講義は教室、実験室、化学講義室にて行う。講義用プリントを用いた授業で、大学入試に十分対応できるレベルである。実験や演習を取り入れながら授業を展開する。生徒実験は3～4名で1グループを編成して行い、実験ごとに個々に作成したレポート（プリント）を提出する。実験を手早く効果的に行うためには予習が必要である。演習ではセンターレベル以上の問題に取り組む。化学は徐々に知識を積み重ねていく学問なので、講義の復習が必要である。

学習の到達目標と評価の観点

- 次の事項を説明することができる。
- ①物質は粒子からできていること、粒子の結合の生成と分解には電子が関わること。
 - ②物質の性質と物質の構造の関連。
 - ③実験事実に対する科学的で体系的な説明。

評価の方法

定期考査・小テスト・提出物（実験プリント、課題プリントなど）・授業態度・実験態度などを総合して評価をつける。特に、実験プリントは、自分の力できちんと仕上げるのが重要。提出物の期限遅れ、未提出には注意すること。

授業計画

学期	単元	配当	学習内容	実験	学習上の留意点	
1 学 期	4 オリエンテーション	1				
	5 物質の構成	2	・物質の探究	1 赤ワインの蒸留	物質が何で構成されているか理解せよ。	
		2	・原子の構造	2 炎色反応	電子配置と周期表の関係を理解せよ。	
		4	・化学結合			
		2 2 2	・物質の量の表し方 ・溶液の濃度 ・化学反応式と物質質量	3 化学反応の量的関係	molは個数の単位であることを忘れないこと。	
	18		中間考査			
6 7	物質の変化	4 2	・酸と塩基の反応 ・中和滴定	4 中和滴定	H ⁺ と化学的性質の関係に注目せよ。	
		3 3	・酸化還元反応 ・金属の酸化還元反応	5 酸化剤と還元剤の反応 6 金属のイオン化傾向	酸化還元と電子の動きに注目せよ。	
		3 3	・電池 ・電気分解	7 電池、電気分解	電子の動きと化学的性質に注目せよ。	
18		期末考査				
2 学 期	8 9 10	3	・周期表と元素	8 ハロゲン元素の性質	非金属元素について、結合の種類とその特徴を理解せよ。 各無機物の性質を理解せよ。	
		3	・水素と希ガス	9 硫酸の性質		
		3	・ハロゲン	10 窒素の性質		
		3 3 3	・酸素・硫黄 ・窒素・リン ・炭素・ケイ素			
	18		中間考査			
11 12	無機物質	3	・アルカリ金属元素	11 1, 2族元素の性質	金属元素について、結合の種類とその特徴を理解せよ。 各無機物の性質を理解せよ。	
		3 3 6 3	・2族元素 ・両性元素 ・遷移元素 ・金属元素の分離	12 遷移元素の性質 13 金属イオンの分離・確認		
18		期末考査				
3 学 期	1 2 3	有機化合物	4	・有機化合物の特徴	14 アルデヒド・ケトンの性質	有機化学の総合的な知識が要求される ベンゼン環を持ったときの特徴に注目せよ。
			4	・有機化合物の構造決定	15 エステルの生成とけん化	
			6 6 6	・炭化水素 ・酸素を含む有機化合物	16 サリチル酸のエステル化	
26		・芳香族化合物 学年末考査	17 ニトロベンゼンとアニリン			

学習者へのメッセージなど

化学は、無限ともいえる物質を扱う学問である。そのため、記憶に頼る科目と勘違いされる。しかし、本当は少数の基本的な考え方を理解することにより、物質相互の関連性をつかみ、全体を把握できるのである。記憶に頼るような学習をしないほしい。

また、化学では原子・分子・イオンを扱う。原子・分子のようなマイクロな世界は、直接見ることはできない。しかし、目に見えるマクロな現象から、観察力と洞察力によって、頭の中でマイクロな世界を見ることができるようになる。また、マイクロな世界の原子分子の動きを考え、実際にマクロな世界で起こる現象を予測することもできる。マイクロの世界とマクロな世界をつなげるような、洞察力と観察力を身につけてほしい。

令和4年度 年間授業計画

都立 戸山 高等学校

科目(講座名)	体 育		3単位	必修	対象学年	2年
教科書 副教材	現代高等保健体育(大修館)	教科担当				

学習の目標

生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質・能力を育成することができるよう、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の育成を重視し、目標及び内容の構造の見直しをできるようにする。

授業内容

男女共に週3時間の体育実技を年間指導計画に従って実施する。本校の体育施設で実施できる実技種目を実施する。新学習指導要領に伴い、2年生でも男女共習の授業形態を取り入れる。陸上競技、水泳、球技(テニス・バレー・ソフトボール・バスケット・バドミントン・卓球)選択、持久力トレーニングを2単位で実施。1単位では体力テスト、剣道・ダンス・球技選択を実施する。また、各学期において体づくり運動・体育理論を実施する。

学習方法

実技種目の記録(学習・個人・グループ)ノート等の利用により、活動の経過を把握し、進歩の状況を自ら確認しながら行い、技能向上と体力の向上を目指す。「する」だけでなく、どのようにおこなえば体力が高まるかを思考し課題解決する力を養う。また、仲間に言葉や文章で伝える力を身につける。6月の第3週目から9月第3週目までは、水泳の授業を集中して行う。特に2年生では平泳ぎ・バタフライの習得を目指す。3学期には、持久走を中心とした体力向上のためのトレーニングなどを行い、運動負荷のかけ方によって、自己の脈拍にどのような変化を与えるかを記録・分析・考察し、レポートにまとめる。

学習を通じて育成すべき資質・能力

	レベル1	レベル2	レベル3
情報活用力 (選択する力)	運動する(学習活動中の)様々な場面で取得する情報の中から、重要な情報を主体的に判断し、選択することができる。	選択した情報を活用して、課題を解決することができる。	レベル2に加え、他者と協働しながら課題をより良く解決することができる。
探究心 (考える力)	他者の発言に対して、自分の頭で「何故か」と考え、疑問点を整理することができる。	事実を論理的、客観的に分析することで、疑問点に対する解決策を考えることができる。	レベル2に加え、自己の解決策を筋道を立てて他者に説明し、理解してもらうことができる。
傾聴力 (受け入れる力)	集団活動のなかで、自己と異なる意見や考えを冷静に聴くことができる。	他者の考えと自己の考えの共通点、相違点を整理することができる。	レベル2に加え、多様性を受け入れつつ、自己の考えとすり合わせることで、合意点を見出すことができる。
行動力 (解決する力)	指導者等の説明や助言を着実に実行することで、課題を解決することができる。	言われたことを自分なりの改善を加えて実行することで、課題をより良く解決することができる。	レベル2に加え、自分とすべき行動を理解し、課題解決のために周囲を巻き込んで行動することができる。

創造力 (生み出す力)	習得した知識・技能を使って、課題を解決することができる。	複数の知識・技能や自己の経験と統合することで、目的に合った解決策を見出すことができる。	レベル2に加え、未知の状況でも目的を達成するための手段を創造し、他者により影響を及ぼすことができる。
----------------	------------------------------	---	--

授業計画

学期	月	単 元	配当時間	学 習 内 容	学習上の留意点
1 学 期	4	体づくり運動 体育理論 陸上競技・バレーボール・テニスから1種目選択	3 2 1 6	体ほぐし運動／体力を高める運動 運動・スポーツの学び方 短距離走・障害走・投てき・跳躍 パス（ストローク） レシーブ サービス スパイク（スマッシュ） トス（ボレー） ゲーム 審判法	互いに協力して活動ができるようにすると共に、勝敗に対して公正な態度がとれるようにする。 また、使用場所や使用器具などの安全を含め、自他の安全に留意して活動ができるようにする。 チームにおける役割を自覚して、その責任を果たし、互いに協力して練習やゲームが行えるようにする。 コロナ対策として、状況に応じた対応を行う。
		剣道（男子） 器械体操（マット） （女子）	8 2 1 0	約束掛かり稽古 掛かり稽古 五角稽古 攻めと守りの試合 倒立前転 速報倒立回転、伸膝後転 前方倒立回転、伸膝前転	
	6	スポーツテスト 水泳（男女）		キック・プル・息つき	
2 学 期	9 1 0	水泳（男女） 体づくり運動 体育理論	9 3 2 1 6	1学期の復習・記録測定 体ほぐし運動／体力を高める運動 運動・スポーツの学び方	
		ソフトボール テニス バスケットボールから選択 剣道 と球技の1種目 選択	8	ボールの扱い方 バットの操作 走塁 フォア・バックハンドストローク ボレー・サービス・試合 パス トリプル シュート 攻防の練習 ゲーム 審判法 約束掛かり稽古 掛かり稽古 五角稽古 攻めと守りの試合 基本練習 簡易ゲーム	
	1	体育理論 体づくり運動 持久力 トレーニング 剣道と球技の 1種目選択	2 8 12 12	運動・スポーツの学び方 持久力トレーニング（男女） 記録測定 試合 基本練習 ゲーム	

学習者へのメッセージなど

体育の見方や考え方を通して、課題に主体的に取り組み、生涯にわたる健康的な生活を営むために必要とされる基本的な体力を身につけてほしいと思います。また、公正・協力・責任・参画・共生の意欲を育て、体育活動を通して粘り強く人間力も高めてほしいと思います。持ち物には記名し実技授業に相応しい体育着着用をして下さい。体育館・武道場では指定の体育館履きを使用して下さい。見学の際は生徒手帳に理由を記入の上、保護者印を押印し、授業開始前に担当教諭に提出して下さい。授業中は体育着を着用し、見学しながら見学記録を書き、授業終了後に提出して下さい。

令和4年度 年間授業計画

都立 戸山 高等学校

科目(講座名)	保健		1単位	必修	対象学年	2年
教科書	現代高等保健体育(大修館)	教科担当				
副教材	図説現代高等保健(大修館)					

学習の目標

現在及び生涯にわたり自他の健康や安全の課題を解決するための基礎となる科学的な知識を身につけ、健康で質の高い生活を送るための理解を深めるとともに豊かな生活を営む態度と実践力を身につける。

授業内容と学習方法

本校の保健のねらいは、健康や安全に関して理解を深め、日常生活に活かすことができるようになることである。週1時間ではあるが、2年生では「生涯を通じる健康」・「社会生活と健康」を中心に集団と健康の関わりについて学習していく。大別すると 1. 生涯の各段階における健康 2. 保健・医療制度のしくみとその活用 3. 環境と健康 4. 食品と環境の保健 5. 労働と健康 に分けられ、それぞれの内容について主体的に学習していく。保健の内容は心身共に健康に成長する過程で、必要不可欠な内容ばかりである。1・2学期は定期テストの点数に、平常点(授業への主体的取り組み、提出物など)を加味して評価する。3学期には学習したことを基に、思考力、判断力、表現力の育成のため、グループワークを行ったり、研究テーマを設定し調査・研究を行ったり、レポートの作成や研究発表を行うなど、より主体的な授業形式で学習も組み込まれる。

学習を通じて育成すべき資質・能力

	レベル1	レベル2	レベル3
情報活用力 (選択する力)	健康に関わる様々な場面で取得する情報の中から、重要な情報を主体的に判断し、選択することができる。	選択した情報を活用して、課題を解決することができる。	レベル2に加え、他者と協働しながら課題をより良く解決することができる。
探究心 (考える力)	健康について自他や社会の課題を発見し、整理することができる。	事実を論理的、客観的に分析することで、課題に対する解決策を考えることができる。	レベル2に加え、自己の解決策を筋道を立てて他者に説明し、理解してもらうことができる。
情報発信力 (伝える力)	集団活動の中で自己の考えを整理し、言語化することができる。	言語化した自己の考えを、分かりやすく他者に伝えることができる。	レベル2に加え、立場や考えの異なる他者に対して、自己の考えを説得力を持って伝え、議論することができる。
傾聴力 (受け入れる力)	集団活動のなかで、自己と異なる意見や考えを冷静に聴くことができる。	他者の考えと自己の考えの共通点、相違点を整理することができる。	レベル2に加え、多様性を受け入れつつ、自己の考えとすり合わせることで、合意点を見出すことができる。
行動力 (解決する力)	習得した知識・情報を使って、課題を解決することができる。	複数の知識・情報や自己の経験と統合することで、目的に合った解決策を見出すことができる。	レベル2に加え、自分がとるべき課題解決方法を理解し、解決に向けて周囲を巻き込んで行動することができる。
創造力 (生み出す力)	課題に対して、これまで得た知識や技術から、工夫や改善点を導き出すことができる。	課題について自ら問いを立て、様々な経験や学習から得た知識・情報を活用し、自分独自の答えを導き出すことができる。	レベル2に加え、未知の状況でも目的を達成するための手段を具体的に創造し、他者により影響を及ぼすことができる。

授業計画

学期	月	単 元	配当時間	学 習 内 容	学習上の留意点
1 学 期	4	生涯を通じる健康	1 2	1. 思春期と健康 2. 性意識と性行動の選択 3. 結婚生活と健康 4. 妊娠・出産と健康 5. 家族計画と人工妊娠中絶 6. 加齢と健康 7. 高齢者のための 社会的取り組み 8. 保健制度とその活用 9. 医療制度とその活用 10. 医薬品と健康 (期末考査)	<p>生涯を通じて健康に生きていくために、生涯の各段階における健康課題を知り、それらに対してどのように対処すればよいかについて学ぶ。</p> <p>また、健康を守るために、保健・医療制度はどのような役割を果たしているか、さらにどのようにそれらを活用すべきなのかについて学ぶ。</p> <p>社会生活における健康の保持増進には、環境などが深くかかわっていることから、環境と健康、環境と食品の保健、労働と健康について理解できるようにする。</p>
2 学 期	9	生涯を通じる健康 社会生活と健康	1 3	11. さまざまな保健活動や対策 12. 大気汚染と健康 13. 水質汚濁・土壌汚染と健康 14. 健康被害の防止と環境対策 15. 環境衛生活動の しくみと働き 16. 食品衛生活動の しくみと働き 17. 食品と環境の保健 と私たち 18. 働くことと健康 19. 労働災害と健康 20. 健康的な職業生活 (期末考査)	<p>人や社会の健康を保持増進するためには、環境保健の活動や食品の安全確保のための活動は不可欠である。環境や食品にかかわってどのような保健活動が行われているのかを理解できるようにする。</p> <p>現代における職業病や労働災害について学び、職場での総合的な安全管理や、働く人々の積極的な健康づくりの方法を理解する。</p>
3 学 期	1	現代社会と健康 社会生活と健康 生涯を通じる健康	1 0	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ学習 ・研究課題 ・研究レポート 	<p>健康について自己または社会の課題を発見し、課題解決に向けて主体的な研究を行う。</p>

学習者へのメッセージなど

保健の授業を通して個人及び社会生活における健康・安全についての理解を深めて下さい。生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てていく場です。授業に積極的に参加するためにも、新聞やニュースなど現在の保健情勢に目を向けることも大切です。授業へは教科書・図説・ノート等教科担任の先生の指示に従って臨んで下さい。

令和4年度 年間授業計画

都立 戸山 高等学校

科目（講座名）	情報の科学	単位	必修・選択	対象学年	2年
教科書 副教材	日本文教出版 新・情報の科学 情報のノート 新・情報の科学 等	教科担当			

学習の目標

コンピュータを活用して、情報収集・加工・発信の基礎的な能力を身に付けることを目指す。情報処理能力の重要性を認識して、使いこなすために各人が自分で工夫することを目指す。また、情報機器の基本的操作からアルゴリズムの理解と活用を進める。

学習内容と学習方法

歴史からコンピュータの仕組みを学ぶ、情報社会に参画する能力を身につけ、個人情報を守る、検索エンジン・検索効率の向上、著作権を学び、違法行為・犯罪行為から身を守る、プログラミングの活用、ビジネススキルの向上。各単元の「ねらい」を理解し、知識を蓄える。授業内のプリントや課題を完成させる。課題を確実に保存・提出する。情報機器の操作方法に慣れ。各自実習に応用させる。

学習を通じて育成すべき資質・能力

	B	A	S
関心・意欲・態度	情報社会と人間にかかわることに関心を持っている。	情報社会と人間にかかわることに関心を持ち、人間としての在り方・生き方について考えようとしている。	情報社会と人間にかかわることに関心を持ち、人間としての在り方・生き方について深く考えようとしている。
情報の収集と再構成（技能・表現）	変化する情報社会の諸課題に関する新たな知識を収集し、既知の知識とあわせて理解することができる。	変化する情報社会の諸課題に関する知識を積極的に収集し、自ら考察して、疑問点に対する解決策を考えることができる	変化する情報社会の諸課題に関する知識を積極的に収集し、自ら考察して、課題解決策を他者にわかりやすく提案することができる。
主体的な学び	情報やインターネットについて関心のある分野をみつけ、多角的・多面的に考察しようとしている。	情報やインターネットについて関心のある分野をみつけ、多角的・多面的に考察し、望ましいあり方について自分の考えをまとめようとしている。	情報やインターネットについて関心のある分野をみつけ、多角的・多面的に考察し、自分の考えをまとめ、説得力をもって伝える工夫をしている。
対話的な学び	グループ学習で、自分の意見をわかりやすく伝えるとともに、他者の考えを冷静に聞くことができる。	グループ学習で、自分の意見をわかりやすく伝えるとともに、他者の考えを聞き、共通点、相違点を整理し、新たな気づきを得ることができる。	グループ学習で、自分の意見を伝え、他者の考えを聞き、共通点、相違点を整理し、新たな気づきを得ながら、その合意点を見出すことができる。

授業計画
第2学年

学期	月	単 元	配当時間	学 習 内 容	学習上の留意点
1 学 期	前 半	プレゼンテーションソフト実習 コンピュータの仕組み	6	プレゼンテーション CPU、メモリ、I/F、BUS	プレゼンテーションの場面と課題、コンピュータの仕組みの理解、現状と課題
	後 半	モデル化とシミュレーション実習 情報社会における法律 ネットワークの仕組み	6	知的財産権 IPアドレス、プロトコル	モデル化とシミュレーションの現状と課題、著作権侵害などの現状と課題 ネットワークの仕組み
2 学 期	前 半	モデル化とシミュレーション実習 暗号化と認証技術	6	モデル化とシミュレーション	モデル化とシミュレーションの現状と課題、著作権の関連としての個人情報流出、違法行為、
	後 半	アルゴリズムの基本	7	フローチャート、順次処理、分岐処理	プログラミングの基本スキル習得
3 学 期		アルゴリズム実習 プログラミング実習 マルウェア	10	反復処理、各種アルゴリズム ネットワーク上のセキュリティ対策	プログラミングの基本スキル習得 インターネットにおける現状と課題

学習者へのメッセージなど

分からないことを分からないままにはしないこと。どこがどのように理解できていないのかを把握し、問題意識を持つことがとても大切です。周囲の友人との情報交換をしたり、資料・文献を用いた調査研究を行ったり、教員へ質問をしたりするなど、積極的な学習活動を行ってください。

令和4年度 年間授業計画

都立 戸山 高等学校

科目（講座名）	政治・経済	2単位	必修	対象学年	3年
教科書 副教材	『政治・経済』東京書籍 『最新図説 政経』浜島書店	教科担当			

学習の目標

広い視野に立って、政治・経済・国際関係などについて多角的に理解させるとともに、現代社会の基本的な問題について、主体的に考え、公正に判断する力を養う。そして、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。また、共通テストの「倫理・政経」、「政治・経済」でも「現代社会」でも高得点をとれる力を身につける。

学習到達度規準

大学入学共通テストで80%を上回る点をとれる学力を身につける。
自分の意見をまとめる作業を通じて、情報収集能力と読解力、表現力を身につける。

授業内容

中学で学んだ「公民」の知識をベースとして、経済分野を中心に基本的仕組みを理解し、日本と国際社会の課題について学習する。課題（テーマ）については、広い視野に立って、様々な観点からアプローチする方法と論点を学ぶ。
小テストにより、知識の定着を図る。

学習方法

各自、教科書を読んでから授業に臨む。資料集、プリントを主に用いて、学習を進める。単元の学習が終わるごと、小テストで知識の定着を図る。
復習しやすいように、各自工夫して、ノートをつくっていくこと。時事問題は、適宜取り上げて解説するが、日頃から、ニュースや新聞をみて、関心を持つこと。

学習の到達目標と評価の観点

1. 関心・意欲・態度・・・社会と人間にかかわることに関心を持ち、人間としての在り方生き方についての自覚を深めようとする姿勢をもったか。
2. 思考・判断・・・変化する現代社会の諸課題を、広い視野に立って多角的・多面的に考察し、望ましい解決の在り方について、主体的に考えようとしたか。
3. 技能・表現・・・様々な情報を活用し、自分の考えを的確に表現することができたか。
4. 知識・理解・・・基本的な事柄を理解し、知識を身につけることができたか。

評価の方法

4回の定期考査の点数に、平常点（授業への取り組み・提出物等）を加味する。

授業計画

学期	月	単 元	配当時間	学 習 内 容	学習上の留意点
1 学 期	前 半	現代の経済社会と政府 民主政治の基本原則	8	経済社会の変容 経済主体・市場経済 市場の失敗 GDP・物価 国民主権・権力分立 法の支配 (中間考査)	時事問題に関心を持って、新聞を読む。 重要用語を理解し、経済活動や政治についてのとらえ方のポイントを知る。
	後 半	日本経済の発展と課題 選挙と政治参加 日本経済の諸課題	10 3	財政・金融 日本経済史 選挙 (期末考査) 公害・環境問題	経済の大きな流れをつかむ。 理論をベースとして、現状を理解する。 政治と経済の関連性について留意する。
2 学 期	前 半	日本社会の諸課題 基本的人権の尊重	8	時事問題 自由権・社会権 労使関係・社会保障 消費者問題 農業・食料問題 (中間考査)	時事問題として、夏季休業中の注目トピックをとりあげる。 人権保障の面からも日本の課題を考察する。
	後 半	国民経済と国際経済 国際社会における日本	12	貿易と国際収支 経済対立と国際協調 国際社会における日本の役割 (期末考査)	政治や経済、日本と世界など、多面的、多角的な観点から、国際関係のダイナミズムをとらえる。
	12	特別授業	14	共通テスト向け問題演習と解説 時事・資料問題対策	重要用語を押さえた上で、共通テストに向けた演習問題を行う。
3 学 期	1 2	特別授業	8 2 6	共通テスト向け問題演習と解説 国立二次問題演習と解説 私立入試問題演習と解説	

学習者へのメッセージなど

授業を大切にして、正確な基礎知識を身につけていきましょう。疑問に思ったことは教員にいつでも質問に来てください。入試では、時事問題に関連した出題もあるので、是非とも毎日、ニュースに接することを習慣づけましょう。そして、現代社会が抱える課題を自らの関わる課題としてとらえ、今後日本は、そして自分はどうあるべきかを考えてください。なお、夏季休業中に環境・資源分野、基本的人権の保障に関する講習を行う予定です。また、希望者に対する補講では、政治分野（国際政治分野、政治機構など）を学習します。

令和4年度 年間授業計画

都立 戸山 高等学校

科目(講座名)	体育	2単位	必修	対象学年	3年
教科書 副教材	新保健体育(大修館)	教科担当			

学習の目標

生涯にわたって計画的に運動・スポーツに親しむ資質や能力を育てるとともに、健康の保持・増進ならびに体力の向上を図り、明るく豊かで活力のある生活を営む態度と実践力を身につける。

学習到達度規準

- ・自分が選択した種目の運動特性に応じた課題解決の仕方を工夫し、計画的に運動することができる。
- ・身につけた力を発揮しながら仲間と協力し、教えあい、励ましあいながら運動することができる。

授業内容

週2時間の体育実技を年間指導計画に従って実施する。本校の体育施設で実施できるサッカー・バレーボール・バスケットボール・バドミントン・卓球・テニスを選択種目とする。また、各種目の実施に当たっては、体づくり運動・体育理論を取り入れ、年間を通して実施する。夏季は、水泳および体づくり運動を実施する。

学習方法

3年生では1・2年生で実施した球技種目の中から希望の種目を3つ選択する。この授業では、種目やグループごとにリーダーを決め、リーダーを中心に生徒同士が協力して授業計画を立案して活動を進めて行く。「勝敗を楽しむことはもちろん、個々の技術や体力を高めるとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開する。」「自分やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに自分や仲間の考えたことを他者に伝える」「公正、協力、責任等の態度や健康や安全に留意して活動を進める。」等をポイントに計画・実践することで、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを継続するための資質や能力を養う学習活動である。6月の中旬から9月初旬までは、水泳と体づくり運動の授業を集中して行う。水泳では、4泳法の習得を目標とする。

重点的に育成したい資質・能力	レベル1	レベル2	レベル3
情報活用力 (選択する力)	高めたい運動技能や体力について、重要な情報を主体的に判断し、選択することができる。	選択した情報を活用して、課題を解決することができる。	レベル2に加え、他者と協働しながら課題をより良く解決することができる。
探究心 (考える力)	技能や戦術について、自分の頭で「何故か」と考え、疑問点を整理することができる。	技術や戦術を論理的、客観的に分析することで、疑問点に対する解決策を考えることができる。	レベル2に加え、自己の解決策を筋道を立てて他者に説明し、理解してもらうことができる。
情報発信力 (伝える力)	集団活動の中で自己の考えを整理し、言語化することができる。	言語化した自己の考えを、分かりやすく他者に伝えることができる。	レベル2に加え、立場や考えの異なる他者に対して、自己の考えを説得力を持って伝え、議論することができる。
傾聴力 (受け入れる力)	集団活動のなかで、自己と異なる意見や考えを冷静に聴くことができる。	他者の考えと自己の考えの共通点、相違点を整理することができる。	レベル2に加え、多様性を受け入れつつ、自己の考えとすり合わせることで、合意点を見出すことができる。
行動力 (解決する力)	安全や健康に関する一般的な知識を活用して活動することができる。	安全や健康に関する知識を活動内容に合わせて、自分なりに改善を加えて行動することができる。	レベル2に加え、自分がとるべき行動を理解し、課題解決のために周囲を巻き込んで行動することができる。

創造力 (生み出す力)	習得した知識・技能を使って、課題を解決することができる。	複数の知識・技能や自己の経験と統合することで、目的に合った解決策を見出すことができる。	レベル2に加え、未知の状況でも目的を達成するための手段を創造し、他者により影響を及ぼすことができる。
----------------	------------------------------	---	--

学習を通じて育成すべき資質・能力
評価の方法

1単位100点とし、実技テスト・記録・発表・レポート等をもとにし、欠席・遅刻・早退・見学等の態度も含め総合的に評価する。
--

授業計画

学期	月	単元	配当時間	学習内容	学習上の留意点
1 学期	4	体づくり運動 体育理論 選択種目	1 1 8	体ほぐし運動／実生活に生かす運動の計画 豊かなスポーツライフの設計 ①アルティメット・バスケット バレーボール・バドミントン・卓球 テニス より2種目選択	互いに協力して練習や競技ができるようにすると共に、勝敗に対して公正な態度がとれるようにする。 また、練習場所などの安全を確かめ、健康・安全に留意して練習や競技ができるようにする。 チームにおける役割を自覚してその責任を果たし、互いに協力して練習やゲームができるようにする。 感染症予防の観点から、更衣の場所や人数、活動の場所や人数、内容については「三密」を避けられるようにする。
	6	水泳 トレーニング 体づくり運動	2 8	スポーツテスト 4泳法 実生活に生かす運動の計画	
2 学期	9	水泳 トレーニング 体づくり運動 体育理論 選択種目	6 1 1 8	4泳法 体ほぐし運動 ／体力を高める運動 実生活に生かす運動の計画 ①アルティメット・バスケット バレーボール・バドミントン・卓球 テニス より2種目選択	
	10	特別授業	2	5種目より選択 バレーボール 卓球・バスケットボール テニス・バドミントン	
	12	特別授業	2	5種目より選択 バレーボール 卓球・バスケットボール テニス・バドミントン	
3 学期	1 2	特別授業	2	5種目より選択 バレーボール 卓球・バスケットボール テニス・バドミントン	

学習者へのメッセージなど

<p>体育の授業を通して生涯にわたる健康的な生活を営むために必要とされる、基本的な礼儀・体力を身につけてほしいと思います。知識は豊富であっても個々の創造性が乏しくては困ります。しっかりと目指すものを持ち、追求する意欲を持って望んで下さい。見学の際は生徒手帳に理由を記入の上保護者印を押して、授業開始前に担当教諭に提出して下さい。授業中は記名した体育着を着用し、見学記録を書き、授業終了後に提出して下さい。</p>
--